

てこれを省略することにする。唇の色が白くて光があり艶を帯びて居る者は妻縁が吉祥で高貴より妻を迎へるものである。唇に紋理の多い者は子福者で子供運が幸福である。唇の色が紅色を呈する者は貴い子供を生みて幸福を得るものである。唇の形が方正なる者は家運を興隆し子孫が榮えるものである。唇が青藍色を呈する者は故障災害を招くことが多く家運を傾けるものである。上唇長き者は父を尅して縁が薄いか早く死別する憂ひがあり、下唇の長き者は母を尅して縁が薄いか早く死別する憂ひがあるものである。唇が垂れ下つて居る者は孤獨の相で骨肉に縁が薄く家庭運が不幸である。女子で下唇が上唇より長い者は夫を尅するもので夫の發達成功を妨げるか又は和合を缺きて不幸を見るものである。女子で唇の紫色を呈する者は失に早く死別して不幸に見るが然らざれば長男を失ひて悲歎を招くものである。上下兩唇が均齊を缺き形の正しからざる者即ち一方が長く一方が短いか、一方が鮮美で一方が汚濁であるとか、一方が突出して居つて一方が引込んで居るとか云ふやうな者は兩親に對する縁が薄いか或は兩親と和合せずして不幸を見るものである。上下兩唇が紫黑色を呈する者は兩親が長生せずして早くより一本立となつて苦勞するものである。女子で唇の色が美

しく活力のある者は夫に對して情が濃かである。上下兩唇に細い立理があつてこれが上下相通貫して居る者は子供が多くて幸福であるが、これに反する者は子供が少なくて不幸である。

(四) 唇の相と壽命

唇長くして齒短き者は長命の相である。唇厚き者特に上唇の厚くして豊かなる者は長壽を保つものである。唇の色が鮮麗で活力のある者は健康にして病に犯されず長壽を得るものである。唇が青藍色を呈する者は短命の相である。唇が暗黒色を呈する者は病弱で病に苦しむ悪死するものである。唇が縮んで吊上つて居る者は短命の相である。唇が尖つて撮み上げたやうな恰好をして居る者は短命の相で窮死する憂ひがあるものである。唇の色が青白い者は短命の相でその上に川の字形の紋理がある時は餓死する憂ひがあるものである。唇に黒子のある者は中毒の爲に命を失ふ憂ひがあるものである。兩唇が密着せずして締りがなく齒の露出して居るやうな者は急死する憂ひがある。女子で唇の色が青色を呈する者は難産の憂ひが

あつてその爲に壽を縮めることがあるものである。唇に光澤がなく枯れたやうで潤ひを帯びない者は病弱短命である。

以上に於いて、唇の現す運命の種々相を説述したのであるが、元來唇は口の一部分をなすのであるから、口の相と相關連してこれを相すべきものである。故に讀者は宜しく前章に於ける五宮の説明中の口の相が現す運命の種々相の説明と、本節に於ける説明とを比較對照せられてその關係を明にし、以て口と唇の相に現るゝ人間の運命を斷せらるべきである。

## 第八節 齒

支那の相法に於いては、齒を論じて

『百骨ノ精華ヲ構へ、一口ノ鋒刃タリ。萬物ヲ運化シテ以テ六府ヲ頤フモノハ齒ナリ。』と云つて居るが、實に齒は食物を咀嚼して我々の身體を養ふものであり、且唇及び舌と共に

言語を司るものであつて、我々人間に取つて重大なる役目を果すものであるから、その形體の正不正、素質の良否等が、我々の運命に影響する所も亦甚大であると云はねばならぬ。以下齒の相が現す運命の種々相に就いて詳説することにする。

### (一) 齒の相と智能性格

齒が白くして光りある者は頭腦明徹にして深謀遠慮よく百事を遂げるものである。齒が明かに光りて銀色の如き者は精神的で學者、教育家、宗教家たる傾向を有するものである。齒が白玉の如き者は性質が明朗で歌謠聲樂を好みこれに長ずるものである。齒が密にして方正なる者は君子の風格を備へ學に優るゝものである。唇が紅く齒の白き者は學に秀で文章に長ずるものである。前齒の二枚が形が正しく大に過ぎず小に失せず中正を得たる者は學才優れ思慮が深いものである。齒が平らで正しい者は性質も善良なるものである。齒が繚亂たる者(所謂亂杭齒)又疊生せる者(所謂八重齒)の者は性質が狡佞で横着なるものである。齒が短くて飲けたる者は下愚である。齒が上が潤く下が尖り丁度鋸の齒を列ねたやうな恰好の者は

性質粗暴である。齒が上が尖り下が濶く丁度角を列べたやうな恰好の者は性質が鄙しいものである。齒端が尖り犬の齒のやうな形をして居る者は毒心を藏し短慮で物事に忿怒し易いものである。齒が參差として不揃ひの者は心が邪曲で詐欺を事とするものである。前齒の二枚が均齊を缺き形の不正な者は性質が粗暴で輕燥である。笑つた時に齒ぐきの露出する者は心が卑しく人の怨恨を招き易いものである。口を開いても齒の見えぬやうな者は不實で信義の乏しいものである。

(二) 齒の相と富貴貧賤

齒が密にして固き者、長くして眞直な者、數が多くして形が正しくよく揃つて居る者、白くして光りある者は何れも富貴の相で、財運豊かにして榮達するものである。語りて齒を露出せざる者は富貴の相で財運に恵まれ上達する望みがあるものである。齒が白玉の如き者は高貴の相で榮達し財運も自然に身に備るに至るものである。齒が石榴の實の如き形の者は富貴の相で財運豊かにして榮達し得るものである。齒が劍鋒の如き者は貴相で人に拔んで、榮

達するものである。齒が牛の齒の如き形をして居る者は身を立て榮えを得る相である。齒が銀の如く光りて明かなる者は富貴の相で財運豊かに地位の榮進を得るものである。古來齒の三十八本ある者は王侯の相とし、三十六本ある者は大臣宰相の相で財も巨萬を得るとし、三十四本ある者は財運地位共にこれに次ぎ、三十二本ある者は又財位共にこれに次ぎ、三十本の者は平常の運勢を備へるものであり、二十八本の者は貧賤の相で財運乏しく地位も上達しないものとして居る。齒が疎らで隙いて居る者は貧相で財運に恵まれず、又齒が短くて缺けて居る者は下賤の相で上達の望みがないものである。齒の先が尖つて鼠の齒のやうな形をして居る者は貧相で財運に恵まれず窮乏に陥るものである。齒が細小で短く粗き者は貧相で財運乏しく貧困を招くものである。

(三) 齒の相と家庭運

前項に於いて説述せる如き富貴の相を現す齒を備ふる者は、概して家庭運も吉祥幸福であり、反對に貧賤の相を現す齒を備ふる者は概して家庭運の凶惡不幸なるものであるが、茲に

は重複を避けて説明を省略することにする。門歯の歯並びがよくて美しく大小中庸を得たる者は両親が長命で身内の縁も豊かなるものである。歯が羊の歯の如き形をして居る者は子孫が榮達して幸福を得るものである。女子で歯が美しく形が方正で歯並の揃つて居る者は優秀なる兒女を生み幸福に恵まれるものである。犬歯が長大で形の長目な者は龍齒と稱して子孫の榮達を見る相である。歯が黄色の者は故障阻滯を招きて家運を傾け不幸に陥るものである。歯が黒くして歯間の隙いて居る者は身内縁が薄く和合を飲き一生を通じて故障災害が多く家運を傾け父祖の業を破るに到るものである。齒齦が露出して居る者は百事蹉跎失敗を招き家運を破りて困窮に陥るものである。上歯が引込んで居つて下歯が突出してこれを覆つて居るやうな者は孤獨薄命の相で、晩年に到つて身を寄せる所がないやうな窮迫に陥る憂ひがある。歯並の不揃ひな者又は出歯の者は血縁が薄く孤獨の相である。二枚の門歯が均齊を飲いで居る者又は歪んだり偏つたりして居る者、その餘りに過大なる者は両親に縁が薄く不幸の相である。門歯の右の歯が無い者は父に先立たれ、左の歯が無い者は母に先立たれるものである。女の場合は此の反對に見るべきである。上歯の門歯が先に脱落する者は父に早く別れ、下歯

の門歯が早く脱落する者は母に早く別れるものである。門歯の間隙が著大なる者は両親を尅し別居して暮すか和合を得ないものである。上歯が突出して居つて下歯を覆ふやうな者は幼年時代に家庭運が凶悪で苦勞辛慘を嘗めるものである。唇が縮んで上歯が露出して居る者は中年に於いて失敗を招き家運を破るに到るものである。上下の門歯が何れも餘りに過大なる者は両親を尅して縁が薄く特に短期間に父母が相次いで死去する憂ひがあるものである。

(四) 齒の相と壽命

齒が密にして堅牢なる者は長壽の相である。齒が劍鋒の如き形をして居る者は長壽の相である。齒が粳米の如き形をして居る者は長壽の相である。齒が白くして長く眞直なる者は長壽の相である。齒の數が完全に揃つて居る者は長命である。齒の露出して居る者は短命で頓死する憂ひがあるものである。齒が焦枯せるやうな感じを與へる者は短命の相で横死する懼れがある。壯年にして齒の脱落せる者は長壽を保たないものである。齒が黒くて桑の實のやうな者は短命の相である。齒の先端が尖つて鼠の齒のやうな形をして居る者は短命である。

齒の数が三十本に足らざる者は短命の相である。齒が細小で短く粗なる者は短命の相である。齒が短くて缺けたる者は短命の相である。門齒が缺け損じて居る者は短命の相である。齒が亂生して不揃ひな者は病弱で短命の相である。

以上に於いて、齒の現す運命の種々相を説明したのであるが、齒も亦口の一部分をなすものであるから、前章五官の説明中に於ける口の相と本節の説明とを比較對照してこれを會得せらるべきである。

## 第九節 舌

支那の相法に於いて、舌を論じて

『夫レ舌ノ道タル、内丹元ノ爲ニ號令ヲナシ、外重機ノ爲ニ鈴鐸トナル。故ニ善ク靈液ヲ性トスルヤ、則チ神ノ舍體トナリ、密ニ志慮ヲ傳フルヤ、則チ心ノ舟楫トナル。是レヲ以

テ性命ノ樞機一身ノ得失托スル所アリ。是レニ由ツテ古人其ノ端醜ヲ評シ、其ノ妄動ヲ誠ムルナリ。』

と云つて居る如く、舌は一方に於いて發聲の樞機たると共に、他方に於いては味覺の機能を司るものである。それ言語は我々の智情意を發露し、思想を傳達するものであり、味覺は我々の心身を養ふ飲食の根元をなすものであつて、此の二大要件を司る舌が我々人間に取つて如何に重要な部位であるかと云ふことは茲に改めて説く必要のない所であつて、從つて我々の身體に取つて斯くの如き重要な部位にある舌が、我々人間の運命に對して如何に重要な關係を有して居るかと云ふことも亦改めて茲に贅言する要のない所であつて、古來『口は禍の門、舌は禍の根である』と稱して居ることより見ても、昔から舌と運命との關係に就いて、我々の祖先が如何に多大なる關心を持つて居つたかと云ふことを窺ひ知ることが出来るのである。以下舌の現す運命の種々相に就いて詳説することにする。

(一) 舌の相と智能性格

舌小さく口大なる者は言語が捷快である。舌の長大なる者は言語寛やかなるもよく人の心を收攬するものである。舌の厚い者は信實があつて人望を得るものである。舌が狭くて長い者は人を欺詐し盗心を有するものである。舌が大にして薄き者は妄動に走り物事を謬るものである。舌が小さくて尖る者は貪慾である。舌の上に黒子のある者は虚偽を常とし言行不信の人である。舌が外に露れて蛇の如き者は毒心を藏して人に傷害を加へるものであり、又奢修淫逸である。發言せざるに先立つて舌を動かすやうな者は妄談を常習とするものである。發言するに當つて舌を舐めるやうな者は不身持の人で信用が出来ないものである。舌大なるも短き者は愚かにして怠墮者である。舌大にして口小なる者は言語が不明瞭である。發言せざるに舌の尖端が先づ外に現れるやうな者は他の失敗過失を悦び言行を屢々變改して信用の置けぬ人である。舌の短小なる者は早口で明瞭を缺き性格も焦燥に流れ人心を擱むことが出来ぬものである。舌の上に紋理が亂れて顯はれて居る者は信義のない人で信用が出来ぬものである。

である。舌の非常に薄い者は妄語を常とするものである。

(二) 舌の相と富貴貧賤

舌は端正で利く長くして大きく鮮やかなるを上相とし、斯くの如き舌の者は富貴共に備り人に優れて榮達するものである。相法上舌が鼻頭に達するやうな者は王侯に到る相であるとして居るが、斯くのごとく長い舌の人は稀であると思ふ。茲には參考として擧げて置く。舌が剛きこと熊の掌の如き者は上達する相である。舌が紅くて丹の如き者は貴相で榮達するものである。舌頭が圓味をなして居る者は富貴の備はる相である。舌が赤きこと血の如き者も地位を得る相である。舌の上に眞直な立理のある者は高位に上る運勢を備へるものである。紋理が舌を繞つて居る者も貴相で榮達するものである。舌に艶があつて形が大きく口に満つるやうな者は富相で財運が豊かである。舌の上錦繡の如き紋のある者は富貴の相で巨萬の財を得榮位雲を凌ぐに至るものである。舌の上に長い理のある者は貴相で榮達する。舌に枝のある理の露れて居る者は富貴共に群を超絶するものである。舌に紋理のない者は富貴共に尋

常凡庸の相である。舌が短くて鋭き者は艱難故障が多く富貴共にこれを得る望みがないものである。舌が大きくても薄い者は貧賤の相で富貴共に望み難いものである。舌の色が黒い者は下賤の相で上達の望みがないものである。舌の色が灰白色なる者は貧相で財運窮乏して恵まれないものである。舌が堀つたやうに凹んで居る者は不幸薄命の相で富貴共に備はる望みがないものである。舌が薄くて小なる者は貧賤の相で萬事通達繁榮を得ないものである。舌頭が太くて粗なる者は貧相で衣食に窮するに到る憂ひがある。舌の短小なる者は貧賤の相で財を破り上達の望みがないものである。舌が黒紫色の者は貧賤の相で初年より晩年に至る迄榮える望みがないものである。

(三) 舌の相と家庭運

舌の相による家庭運の吉凶、幸不幸等は、茲に取立て、説明する程の特異な點がないのであつて、大體前項に於いて説述せる富貴の相を備へたる者は、家庭運も吉祥幸福であり、反對に貧賤の相を備へたる者は、家庭運も凶悪不幸であると斷じて良いものである。

(四) 舌の相と壽命

舌の色が美しく鮮やかなる者は強健にして長壽を保つ相である。舌の形が端正で長く大なる者は長壽の相である。舌に光澤がなく枯れたやうな感じを興へる者は多病で短命である。舌が暗黒色を呈する者は精力が乏しく虚弱で短命の相である。舌が白じやけて灰色を帯びたる者も病弱短命の相である。舌が黒紫色を呈する者も病弱短命の相である。以上に於いて、舌の現す運命の種々相に就いて説明したのであるが、勿論舌も唇や歯と同じく口の一部分をなすものであるから、唇や歯と同様に、口の相と比較對照してこれを綜合的に考へることが必要である。

第十節 髭 鬚

髭と云ふのは口髭のことであり、鬚と云ふのは鬚鬚のことであるが、髭鬚共に顔面の一部

位であつて、従つてその有無又は形容が、われ／＼人間の運命に關係することを免れぬものである。以下髭鬚と人間の運命との關係を説明することにすが、これに就いては他の部位程複雑でなく、従つてこれを區別して説明する必要はないと考へるから、左に一括してこれを説明して置くことにする。

### 髭鬚の現はす運命の種々相

相法上髭を以て祿を司るとなし、鬚を以て官を司るとなす。即ち祿とは富のことであつて官とは地位のことである。故に髭鬚共に全くして五官の相が吉相なる者は富貴共に備はるものである。髭があつて鬚がない者は地位の榮達は餘り望めないが財運には恵まれるものであり、反對に鬚があつて髭がない者は地位は上達することはあるが財運には乏しいもので、結局富が不足な爲に人心が離散して折角の地位もこれを確保永續することが出来なくなる憂ひがある。故に人相上から見ては髭あつて鬚なき者の方を吉相とし、鬚あつて髭なき者の方を

凶相とするのである。髭鬚共に黒くして清秀なる者は富貴の相で財運豊かにして地位も榮達するものである。髭鬚共に光澤を有し潤ひのある者は福相で財運が豊かで益々發達するものである。髭鬚共に生じて長く光澤ある者は健康長壽の相である。鬚あつて髭なき者は前述の如く財運が乏しく地位も永續せずして凶相とするが壽命は長いものである。髭鬚共にこれを生ぜざる者は短命の相である。若し相當長命を保つても餘り榮達する望みがない者である。女子で髭鬚を有する如き者は凶相で、孤獨薄命にして勞苦困窮を免れぬものである。髭鬚が縮んで居る者又赤き者は孤獨貧賤の相である。髭鬚が乾燥して潤ひのない者は運勢上故障阻滯を招き成功發展を得ぬものである。髭鬚が勁直なる者は性質が剛直であるが金錢に淡泊で財を蓄積せず清貧にして世を終るものである。髭鬚の柔軟なる者は性質も柔和なものである。

### 第十一節 顴骨及び顙骨



顛骨とは即ち頰骨のことであり、顛骨とは即ち顎骨のことである。以下此の兩骨と人間の運命との關係に就いて概説することにする。

顛骨の高い者は識見も高邁で、特に性質が剛直であつて、果敢進取の氣性に富み、萬事に積極的なるものである。顛骨の肉づきが豊満で、傷痕、紋理、痣等がなく、氣色の鮮美なる者は精力が旺盛で、奮闘努力の精神が強いものである。顛骨が硬くて圓滿に發達して居つて肉づきの豊かなる者は富貴の相で財運地位共に繁榮するものである。顛骨が突出して居る者は剛頑で我意が強く人と和合を缺きて運勢を損するものである。顛骨が陥没して居る者は性質が柔弱で個性に乏しく、果敢進取の氣性を缺き萬事消極的に流れるものである。

顛骨の發達が完全で形が正しくて缺陷がなく、肉づきも豊かで、傷痕、痣等がなく、氣色の鮮美なる者は吉相で運勢が良く、特に晩年に於いて幸福を得るものである。顛骨の發達が劣り、形が不正で、肉が削げて居り、傷痕や痣などがあつて、氣色の昏暗なる者は運勢が悪く、特に晩年に於いて孤獨困窮に陥るものである。顛骨が過大なる者は仁懐心に富む所があるが、性質が執拗で復讐心が強く、仇敵に對して飽く迄追迫して止まぬ風があるものである。

## 第十二節 頰 と 項

顛骨の過小なる者は意氣地がなく萬事に引込思案になつて運勢の發達を得ぬものである。顛骨が尖つて三角形をなして居るやうな者は貧相で財運に恵まれぬものである。顛骨が人並み外れて出張つて居る者は、性格が下賤で高尚なる所がなく、趣味性を缺きて殺風景に流れるものである。

頰と云ふのは前方から見た場合の名稱で、項と云ふのは後方から見た場合の名稱である。此の兩者は何れも顔面の部位ではないが、頭と同様その位置より見て顔面と密接な關係があり、身體に對する役目としては上は頭首を支へ、下は四體を率ゐて高然として峙立するものであつて、重要な部位であり、従つてわれ／＼人間の運命にも多大なる關係を有するものであるから、以下頰項と人間の運命との關係を概説することにする。

### 頸項の現はす運命の種々相

項が真直で隆起し光潤なる者は貴相で榮達するものである。項が豊かにして圓く（俗に云ふむつくりしたる者）堅實なる者は富相で財運が豊かである。項が短かめで形の端正なる者は富貴の相で財運に恵まれ地位も上達するものである。項の皮膚が光澤があつて美しく糸條の如く通つて居る者は吉相で運勢が榮え特に長壽を得るものである。肥えた人で項の短い者瘦せた人で項の長い者は共に高貴の相で榮達し、壽命も長いものであり、特に晩年に至つて名聲が揚がるものであるが、これに反する者は凶相で、父祖の業を破りて他郷に流浪するに至るものであり、若し貧苦に陥らざる時は短命を免れぬものである。項が側ち小さくて細く弱々しい者は運勢も薄弱で人の上に立ち得ぬものである。頸の形が端正で眞直な者は性質も正善で福運も豊かなものである。頸が圓くて衣袖を疊んだやうな恰好の者は富相で財運に恵まれ壽命も長壽である。

## 第四章 十二宮

第四章の説明に入る前に、一寸一言して置くべきことがある。それは本著第二章及び第三章に於いて説明したる所は、予の研究と實地の體驗に基いて、顔面の各部位の相法に就いて説明したのであるが、本章より第六章に至るまでの説明は、古來より顔面を種々なる部位に區別して、その各部位に就いて人間の運命の觀方を説いて居る相法があるのであつて、此の相法は廣く行はれて居るものであり、云はば相法の定石とも云ふべきものであつて、性相學を論ずるに當つては是非共その大要を説明して置く必要があると考へるし、又一面に於いて人相を觀る場合に、これを心得て居れば非常に便宜でもあると考へるから、茲にこれを説明することにしたのである。従つて第四章より第六章までの説明中には、第二章及び第三章に於いて説明したる所と、重複する點があるのを免れないのであるが、讀者は斯くの如く重複したる點があつた場合には、兩者を比較對照してこれを相法上に應用するやうにされたいのである。

18丁、4枚。  
昭24.6.8

は父を尅する相である。命宮が廣いのは家庭の人々が親和する相である。此の部に亂紋があるのは身に苦勞が絶えない。黒子があつたり形が歪んでゐたりするのは其の身を破滅に導く相である。此の部に赤い氣色が現れると刑傷の愁ひを見ることがある。黒色のものは身を亡ぼす相。白色は悲愁の事ある相。紅黄は吉祥にして悦びある相。青黄色が現れると不測の災禍を見る相とする。

壽 命

命宮山根が平滿なれば福壽の相とする。命宮がはつきりとしてみづ／＼しい光澤のあるものは壽命が長く健康の相である。八の字の皺があるのは短命である。縦の皺殊に若い年にこれがあると天折不健康の相とする。この部に蒼黒の氣色が現れると生命を失ふことがあり、健康上油斷のならぬ相である。赤黄色の氣色が現れると病氣恢復の相とする。

(二) 財 帛 宮

財帛宮といふのは、主として鼻の先のふくれた部分を指すのであるが、財帛宮論に據ると『天倉・地庫・金甲櫃・井竈ヲ總テ財帛宮ト曰フ』とある。天倉とは兩の眼尻で、妻妾宮と同じく、地庫は顎の左右、金櫃及び甲櫃とは左右の小鼻、井竈とは鼻孔のことである。これらの部位は、他と比べて殊に財を司ることに於いて重要なところなのである。

知 能 性 格

鼻が豊かで肉があり、正直にして先が圓かなものは禮儀を備へてゐる相である。小鼻の怒つてゐるのは威勢ある相である。鼻が仰向くもの、横に曲つたものは目上に背く相である。ゆつたりとして圓く孔のところ少しかけて小鼻が小さく鼻下の水溝が眞直で深いのは正直溫和の相である。鼻大きく高く尖り根元に節があつて先が鷹口の形をしてゐるのは性質の直ならぬ相である。根元が低く短いのは不孝不義の相である。鼻まるくゆつたりと見えるのは賢き相である。鼻頭の肉が圓くさがり鼻下の溝が廣く厚いのは淫性の相である。根元に節があり小鼻のところの筋が深い女は嫉妬深い。

富 貴 貧 賤

鼻は顔相應に大ならず小ならず鼻梁が通つて目の間に行つて急に低くならず、肉があつてゆつたりと長く、鼻の先が圓く肉が豊かで小鼻は怒らずうんなりと見え、鼻孔は圓く、下から覗かなければ見えぬ位に小さいのは尊貴の相である。鼻が筒を切つたやうに上から下へスラリと通り、これに豊満な小鼻のついてゐるのは財運に恵まれる相である。鼻の上部に肉が薄く下半部に肉が豊かなのは、始めは貧賤であるが後に財を得る相である。上半部が秀高で下半部が豊満なのは富貴満ち足りて子孫に迄及ぶ相である。形は様々あるが、すべてその根もとが低く小鼻のところの筋が深く、肉のない鼻は貧窮の相である。鼻が顔に釣合はず高く大きく、根もとの骨があらはで瘦せ枯れて見えるのは貧乏の相である。井竈即ち鼻の孔が仰向いて露はれて居るのは臺所が豊かでない相である。左右の小鼻が缺けたやうに小さいのは金が溜らず常に貧窮に苦しむ相である。鼻に節があつて鷹口鼻であるか、不相應に鼻が大きく先の赤いのは身代を保てない相である。鼻が少しく仰向き根もとの低いのは卑賤の相である。鼻が小さく圓く、中ほどから左右何れへか少し歪んで居るのは卑賤の相である。根もとが低く、中ほどにて横へ張り骨ばつて、頭が低くめで小鼻の怒つて居るのは下賤の相である

鼻の色が黒いのは財祿を破り失ふ相である。鼻に紅黄の氣色が現れるのは財運に恵まれる相である。

家 庭 運

鼻の形が通常で、頭が圓く肉があり、根もとは低い肉が有つて瘦せず、とくと見れば少し平めで大きい鼻、小鼻が怒らず鼻孔の大きからぬ鼻は幸運の相を備へてゐる。圓く竹を二つに割つたやうで鼻頭まで圓く、穴は小さく圓く、上の根元ほど肉があつて少しく太く見え、低くからざる鼻は名を揚ぐる相である。根もとが少し歪み、すゞけ色で瘦せ鼻ばしらの上に堅皺の多いのは艱難多き相である。節がある齶口鼻或は顔不相應に大きく先の赤い鼻は家運を維持し得ぬ相である。形は普通で左へ歪んだものは父、右へ歪んだのは母が難儀するか又は病死する相である。甚だ小さく或は非常に大きくて瘦せ、鼻骨が高く薄く尖り、ひつつけたやうに見えるものは子の無い相である。大きく薄く肉なく尖つた鼻は子があつても育たぬ相である。小さく根もとが低く、鼻すちに堅紋が二すち三すち見え、又目との間に堅すちがしつかりと見え或は常に鼻頭が煤けて暗く見えるのは妻縁のない相である。一見普通に見

え而もよく見ればむつくりと大きく頭が圓くて艶があり潤うて居る鼻は結婚後幸福の相である。少しく大きく、孔は削いだやうで大きく、小鼻より下へかけて掘つたやうに深く凹んで居るのは結婚後不幸の相である。鼻筋がむつくりと見え、中ほどから下が急に瘦せ枯れて小さいのは、中年以後苦勞する相である。鼻に節があつて高く尖るは夫縁悪しき相である。根もとに節があつて、小鼻のところ筋の深いのは嫉妬深い相である。

壽 命

鼻が柔かで骨なさが如く、色煤け黒く肉深く枯れたやうで根もとに堅筋が深く歪んで見えるのは天折の相である。鼻まろく長くさし通り、根もとが凹ます頭曲らず仰向かす小鼻が怒つてないのは長壽の相である。鼻の先に蒼黒の氣色が現れると發病の相である。鼻に赤色の氣が現れるときは血行障害の相である。

(三) 兄 弟 宮

兄弟宮とは左右の眉の部位で、これの形容色澤によつて兄弟姉妹の有無親疎を見るのである。神相全編正義には「男ハ左ヲ兄宮、右ヲ弟宮、女ハ右ヲ姉宮、左ヲ妹宮ト爲ス」とある。西洋では眉を以て心の符牒であると云ひ、日本では文野の別を観ると云つてゐる。

知 能 性 格

眉の美しいのは知識がすぐれ性質も優美高尚である。眉の醜いのは知識なく粗野の性質を現す。眉が高く即ち眼と眉との間が廣いのは精神的で、低いのは物質的である。故に眉が高く着いて居つて新月のやうに美しいのは、思想が深く、宗教心道徳心に富む。眉の大きなものは膽力が大きく、小なるものは小膽の相である。眉頭の上つたのは、大膽であるが争論を好む惧れがある。眉の形が八の字をして居るのは心が強く、一の字形をして居るのは智慮の深い相である。眉毛の太く短かいのは性質が急激で不運の人が多し。眉毛が迫り眼と眼との間から生ずるやうな人は短慮である。

富 貴 貧 賤

眉毛がバサ／＼して亂れて居るのは財運のない相である。又形が醜く、或は薄く、或は短

いのはすべて金運がない。

家 庭 運

眉が長くて眼を過ぎて居るのは兄弟和親の相である。長男の眉は割合に薄く、次男三男の眉は割合に濃いのが普通である。眉の形が歪んでゐたり、薄かつたり、短か過ぎるのは親子兄弟の縁が薄い。眉毛の荒いのは両親妻子に縁が薄い。眉毛に間断缺陷のあるのは早く親に別れ兄弟仲悪しく、妻子と離散する憂相である。眉毛が甚しく迫つてゐるのは妻縁が薄い。眉毛が太く濃いのは兄弟が多いが、逆立つやうに太く長さが眼を越えないものは兄弟が無いか、有つても一人である。眉毛の中に旋毛があれば兄弟が多い。眉毛が逆生するものは兄弟仲が悪い。眉が清くして光澤あるものは孤騰成功の相である。老年になつて眉の中部から長い毛が生ずるのは幸福の相である。眉に青色の氣が現れると兄弟間に争ひが起る。赤色の氣が現れると兄弟間に口舌の災がある。黒氣が現れると兄弟尅害傷病のことがある。紅黄色は一家榮貴喜慶の相である。

壽 命

眉の尾部に長い毛を生ずるのは長命の相である。

(四) 田 宅 宮

田宅宮は左右の眼及び眉と眉との間の部位である。眼は人相に於ける各部位の中で最も活動性の部位であり、美醜善悪凡ての物をこの鏡に映して見るものであるから、最も外界の刺激を受けることが多く、従つてその形状の上に最もその人の性格運勢が現れるものである。眼は全體として清く涼しく潤ひのあるのを以て吉相とする。

知 能 性 格

眼球の黑白がはつきりとして、瞳孔虹彩共に一點の疵の無いのは、心正しく明かにして智力が勝れ人の上に立つことが出来るものである。眼の大きい人は概して大膽であり、小さい人は概して小心であるが、餘りに大に過ぐるものは、大きい仕事をする代りに、やゝもすると山師に流れたり謀反心を持つ懼れがある。三角形の眼は心の佞奸なるを現す。餘りに眼の

短小に過ぐるは性急の相である。白眼が黒眼に比例して大に過ぐるは盗心の相である。瞳定まらず常に上下左右に動くもの又は常に上眼を使ふ者は邪心があり、盜癖を有する懼れがある。常に下眼を使ふ人は内心が險惡高慢である。目尻が魚の尾のやうに垂れた人や二重眼の人は淫亂の相で、貞操の觀念の薄い人が多いものである。目尻の筋が下つてゐるのは才能が薄く發達の望みがない。目尻に缺陷があり鉤上つたのは不敵の心を持つ相である。眉と眼との間が餘りに廣過ぎるのは好人物過ぎて機轉がきかぬ爲時機を逸し勝ちで成功が遅れる。眉と眼との間が狭いのは機敏であるが狭量であるから敵を作り易い傾きがある相である。

富 貴 貧 賤

眼の形が丸く明かなのは富貴の相である。眼が長くして明らかなるは富貴の相である。眼が漆を點じたやうに澄んでゐるのは産業繁榮の相である。眉が高く眼は鳳凰の如くであれば三州五縣に税を置くほどの大富豪となる相である。眼の珠が大きく周りに赤き輪のあるは家財を傾け盡す相である。

家 庭 運

眼が小さくして明かなるは孝心に富みて親の縁が良い。左の眼に故障のある人は父親に縁が薄く、右の眼に故障のある人は母親に縁が薄い。又親から云へば左の眼に故障のあるものは男の子に、右の眼に故障のあるのは女の子に縁の薄い傾きがあり、兄弟で云へば左の眼の故障は男の兄弟に縁が薄く、右の眼の故障は女の兄弟に縁が薄い。眼の大なる女は夫又は子を尅する惧れがある。白眼が黒眼に比して大に過ぐるは親を尅し妻を尅する相である。眼尻の筋が上つて居るのは妻子に苦勞をかける相である。眼中に赤脈の走つてゐるのは親子兄弟離散の相である。

壽 命

眼の形が丸くして明かなるは長壽の相である。眼が長くして明かなるは長壽の相である。眼球が赤く濁つて居るのは血行器官に障害ある相である。

(五) 男 女 宮

男女宮といふのは左右兩眼の下の部位で、この形容色澤によつて身分の有無貴賤男女の縁不縁を判するのである。右の方は女で顔の中心に近い方から長女、中女、少女（これを三陰といふ）と並び、左は男で、やはり顔の中心に近い方から長男、中男、少男（これを三陽といふ）と並ぶ。又男女宮を二分して、眼の直ぐ下を臥蠶、その下の部位を淚童と呼んでゐる。

知 能 性 格

臥蠶が豊富で色澤美はしきは精神の正しい相である。

富 貴 貧 賤

臥蠶が豊富で方あるものは子供が高き地位を得る相である。臥蠶がはつきりしてゐて凹んだり色澤が褪せたりしてゐなければ子孫富貴の相である。眼尻から臥蠶にかけて黄色を帯びてゐれば富貴の相である。

家 庭 運

臥蠶がふつくりとして淚童が緊張して居るのは精力旺盛従つて兒女に恵まるゝ相である。



男女宮に痣や黒子などがあるのは、晩年に到つて子孫を尅害する相である。臥蠶が陥入つて居るものは後繼者が無い相である。臥蠶が陰氣で華やかならぬものは、男女ともにその子が不健康か薄運かを免れない。涙童が深く陥入つて居るのは男女薄縁の相である。臥蠶の紋が亂れて居るのは養子を入る、相である。

壽 命

男女宮に活色がなく、甚しく疲勞して居るのは、精力を亂費した相である。此の部の色澤が汚れて居るのは性病を患ふ相である。

(六) 奴 僕 宮

奴僕宮は顎のことで、地閣、地庫とも云ふ。地庫は唇に接した部分である。

知 能 性 格

顎がこけて先の缺けたやうになつて居るのは、人に深く恩を受けてゐながら却つて怨恨を

成す相である。

富 貴 貧 賤

頤が圓くてふつくりとして居るのは多くの家來を従へるか、又は多數の人の上に立つて指揮指導する身分となる相である。

家 庭 運

この宮が陥り缺けて居るのは、従ふ者の無い相で、たとへあつてもそれを引きつけておく力のない相である。此の部に青色の氣が現れると、使用人や家畜に逃げられたり又は病氣になられたりすることがある。赤色は主人と使用人との口舌の論ある相である。

(七) 妻 妾 宮

妻妾宮は「魚尾に居す、奸門と云ふ」とあつて魚尾も奸門も眼尻のことである。

知 能 性 格

この部に黒痣斜紋があるのは、外見はさりげなく見えて心に淫慾の多い性質を現す相である。

家 庭 運

この宮が光潤にして亂紋などがなければ、その身は安く、妻は婦徳を全くして一家平和安穩の相である。この部が豊隆平満なるは妻を娶りて財帛箱に盈ちるの相である。この部と天倉が續いて光潤なれば妻縁によつて祿位を得る相である。奸門が暗くして勢ひが無いのは妻に生別するの相である。魚尾が豊満であれば夫は貴く妻は榮ゆるの相である。婦女の魚尾奸門が明潤なるは、貴人を得て夫となすの相である。この部位が落ちくぼんで居るのは夫を妨げ淫亂にして家を破るの相である。この部に黒い痣があれば不貞の相である。顔は満月の如く、下顎が豊満であれば、高貴の人の室となる相即ち氏なくとも玉の輿に乗るべき相である。この部に青色の氣色現はるときは妻に憂苦することを示す相である。赤き氣色あれば夫妻口舌の争ひある相とする。黑白の交るのは夫妻の悲しみある相。紅黄色が現れると夫妻男女和諧の喜びある相。暗昧の色現れるときは夫妻の別離を示し、黄色は夫婦偕老の喜びを示すものである。

(八) 疾 厄 宮

場所は兩眼の間、鼻のつけ根で、印堂の下、山根と稱する所と同じ部位である。この部位は主として疾病の有無及び治否、壽命の長短災厄の有無等を見るところである。

知 能 性 格

鼻梁との連なりが細高なるは文才あるの相である。この部が高過ぎると性質が孤高に過ぎて世と相容れぬ嫌ひがある。此の部が低過ぎるのは知能の鈍きに過ぐる相である。

富 貴 貧 賤

この部が豊満にして高ければ福祿富貴の相である。

家 庭 運

この部に立紋があるものは兒女に恵まれぬ相である。瑩然として光彩あるものは家族繁榮

の相である。

壽 命

この部が隆く豊満であれば無病息災の相である。この部に紋理があつたり凹み込んでゐたりすると深くかくれてゐた疾病に苦しめられるものである。傷や黒子があると疾病災厄を免れない。枯骨刺すが如き形容のものは終身病苦に悩まされる相である。この部の色に黒色が現はれるときは生命を失ふ相である。

(九) 遷 移 宮

遷移宮といふのは眉毛の尾部を斜めに上つたところを主とし、それに邊地即ち額の角の髪の毛の生え際から少しく下つて驛馬山林と稱する部分をも含む。この部は異動變化即ち旅行轉宅移官等の事を見る所である。

知 能 性 格

この部が豊盈隆満で色艶がよければ知能性格の圓滿に發達してゐることを現す。

家 庭 運

遷移宮が肉豊かにして色澤清淨であれば家宅に憂ひがない。即ち身分に厭はしき異動がなく愉快に生涯を送ることが出来るし、また自から動いて遠くへ行き又は移動することも差支へない。驛馬即ち髪の毛の生え際の部分に輝きが現はれると各地に貴官として出づることある相である。額に近い部分の肉が低く陥入つて居るのは、老年になつてから身の安泰を求むる所無き相である。この凹みが眉と接觸してゐると祖先の業務家産を破つて家を離れる。天倉邊地の斜偏なるは十居九變の相とする。この部に汚色暗色のあるときは移動すべからざる相である。この部に青き氣色が現れると遠く行つて驚きを見る相である。白色が現れると家畜や僕婢について災禍を見ることがある。紅か黄か紫の氣色が現れると萬事宜しく喜びを見る相である。

壽 命

この宮に傷や黒子などのあるのは、移動して病難、傷難などの災を見ることある相である

又白き氣色が現はれると手足の損傷を見る懼れがある。黒き氣色が現はれると外出中に命を失ふことある相である。

(一〇) 官 祿 宮

官祿宮は命宮の上、額の中央で、こゝを中正の部位と稱する。まづ一般に額全部を官祿宮と見てよい。

知 能 性 格

この宮が豊満で輝きがあれば知能性格のすぐれてゐる相である。この部位が堂々として秀でて居るのは知能の發達せる相である。

富 貴 貧 賤

此の部の色澤が麗はしく形容醜ならざるは功名官祿を得て幸福の相である。額肉堂々として秀でて居れば貴官に就く。額に痕理があれば常に横事を招く相である。額の角が自然に廣

くなつてゐるのは財運に恵まれる相である。額廣く且眉と眉との間が廣いと貴官高名を得る相である。この部に紅黃の氣色が現れると、官進職の悦び事があることを示す。

家 庭 運

この宮に赤色の氣が現れると訴訟事の憂ひを見、家庭内の紛亂破財のことあるを示す。

壽 命

この宮に黒氣が現れると流行病に罹ることを示す相である。また昏暗の色あるは囚はれ身となつて壽命を縮むるの凶相である。

(一一) 福 德 宮

この宮は、遷移宮と同じ場所即ち顔の横がそれだとも云はれるが、一般には額の兩角即日角月角と稱する部分を指して福德宮と名づけてゐる。

知 能 性 格



第五章 十三部位

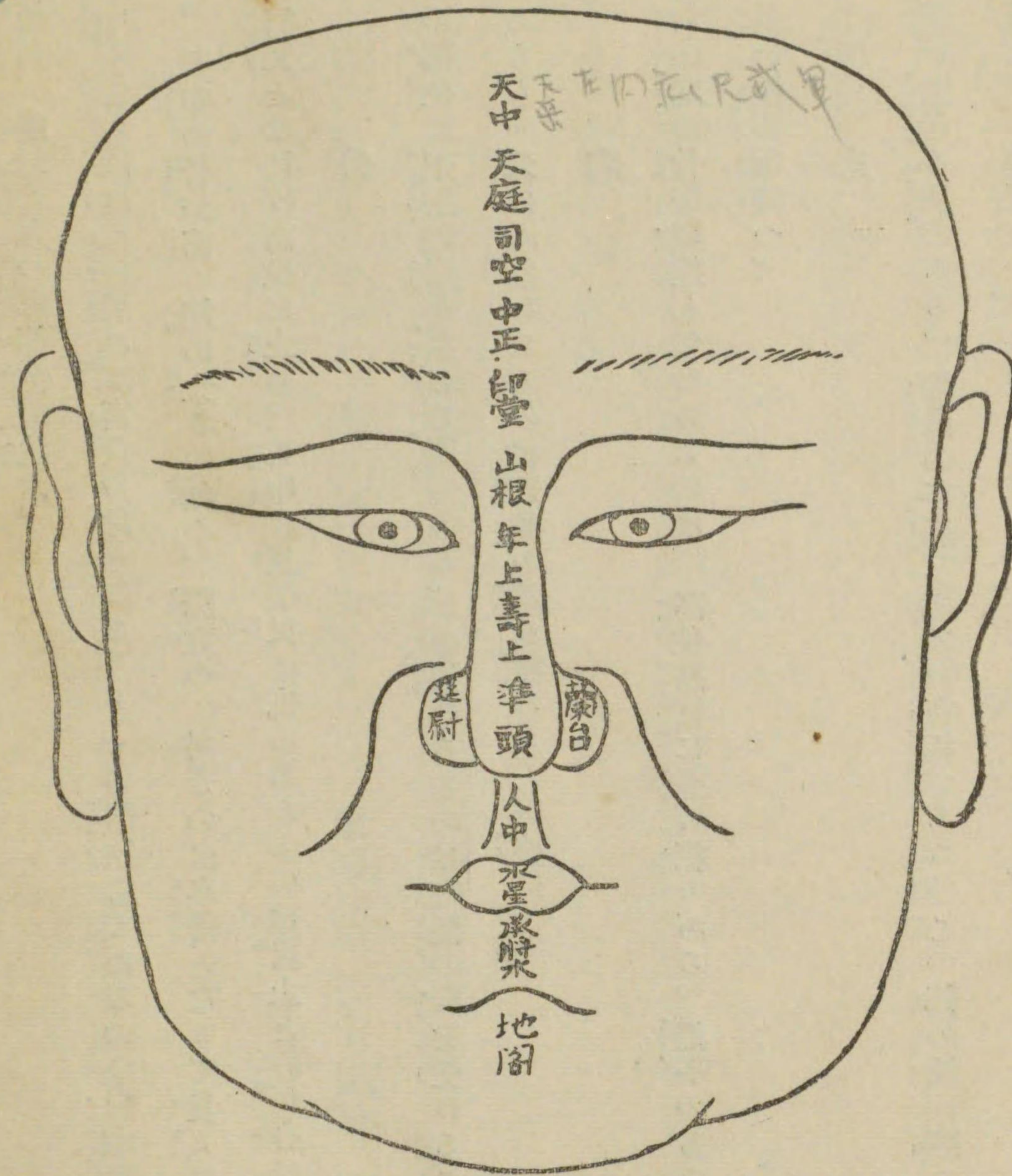


圖 の 位 部 三 十

古來人相學に於いては、顔面を額から顎に到る中心線を十三部位に分ち、更にそれより横に派生して各々区分し、すべて百三十部位に分けて、その各々に名稱を附して居る。十三部位はこれらの總括的な部位で、顔面中の相を見るべき重要な場所なのである。

十三部位は何々であるかといふに、先づ額の上部から兩眉の間を縦に天中、天庭、司空、中正、印堂の五部分に分ち、その各々から横に合計五十部位を定める。これらは人間の初運をつかさどるところである。次は鼻を縦に貫く部分でこれを上から山根、年上、壽上、準頭の四部分に分ち、その各々の横列が合計四十部位となり、これは中運を観るところとする。次は鼻の下から顎に到る部分で、之を人中、水星、承漿、地閣の四部分に分ち、その各々の横列が合計四十部位となる。これは晩運を司るところとする。

(一) 天 中

天中とは額の中心線の最上部で、これより横に天岳、左廂、内府、高廣、尺陽、武庫、軍

門、輔角、邊地と九つの部位が並ぶ。

天中の骨が隆起して居れば富貴の身となる。この陥缺してゐるのは田宅財祿の薄い相である。天中の骨が高く筋の太さの如く、際立つて居るのは名僧となりて貴人に近づく相である。官吏となれば高位に上る。天中に黒子又は疵のあるものは目上と心が合はない。

天 岳

この部位は刑訟の事を主とする所である。平満なるものは刑訟の難を受けることがない。黒子のあるもの又は汚色あるものは刑訟の難を被ることが多い。

左 廂

左右の廂の骨が発達してゐるものは、高位高官に登る相である。黒子のあるものは悪事に傾き易い性質を持つ。

内 府

財運を主とする所である。骨肉の平満なものが吉相である。この部の缺け落ちてゐるものは家庭運が悪い。黒痣や黒子のあるものは骨肉に早く別れる。

高 廣

高廣と驛馬の骨が秀で、居れば高官に昇り高位を授けられる。汚色あるものは不孝の子となるか兩親に早く別れる。

尺 陽

この部も官役のことを主とする所である。骨が秀でたものは官位につけば次第に出世するが、缺けたものは一生頭が上らない。

武 庫

兵に關することを主とする所である。この部分の秀でて居るものは宜しく軍職に就くべきで必ず上將となるものである。傾き缺けて居るものは、軍職に就いても敗戦、戦死等の不運に見舞はれる。

軍 門

武庫と同様兵事軍門に關することを主とするところで、相の吉凶も同様に見てよい。

補 角



こゝの骨が秀でて居るのは文章の才ある相である。又官に就いても相當上位に昇り得る。骨が著しく秀で、居るものは大官高貴の位に達する。

邊 地

この部分の骨が秀でて居れば、遠い所に出で高官上位に就く。汚色あるものは遠く出でて薄運生命を失ふことがある。

(二) 天 庭

天庭は一名天牢、四方館とも云ひ、これより横へ日角、天府、房心、父墓、上墓、四殺、戰堂、驛馬、弔庭の部位がある。

天庭の骨が隆起して色澤が紅潤なるものは大臣の位に就く。黒子があれば高官にして受刑の憂目を見る。

日 角

日角月角の秀でて居るものは高貴の位に就き、父母の長命健康な相である。

天 府

一名王府と云ひ、官吏となつての運勢如何を觀る所である。この部が缺けて居るものは官吏となつても昇級せず又失職の憂ひがある。

房 心

こゝは師傳の事を主とする所であるから、この部の秀でたものは教育家となれば出世するものである。

父 墓

この部位は父母についての事を主とする所である。色澤光明であれば子孫繁榮の相である。勢ひのないや傷又は黒子があれば子を尅するの相である。

上 墓

父母の墳墓の事を主とする所で、黒子、傷等があつたり、汚色があつたりするのは凶である

四 殺

この骨が秀でて居れば地方官となつて出世する。

堂

この骨が秀でて居れば軍人となつて上將となり、戦に出づれば勝利を得る。缺けて居れば敗戦又は戦死の相である。

驛 馬

別名を喝唱と云ひ、高廣の下俗に頼頼と云ふあたりに位する。旅行の吉凶を見るところである。驛馬に缺陷あるか又は肉なく低く汚色あれば、旅行に限らず、遠國他郷との取引や相談事の類が滯滞勝ちに流れて通達しないものである。こゝに青色の氣が現れるときは恐驚、黒氣は災厄、赤氣は争論、白氣は愁離、紅黄は吉とする。

弔 庭

白き色あれば父母の死に遭ふ。青色は身に思はざる難が降りかゝる。

(三) 司 空

司空は額の真中に當り、こゝから横に、上郷、少府、交友、道中、交額、重眉、山林、崖、邑、隱賢の部位がある。

この骨が秀でて居ると大臣に次ぐ位に上る。汚色、黒子等のあるものは悪疾に犯される

額 角

この骨が秀でて居れば大教育家となる。赤色の氣が現れると劍難に遭ふことがある。

上 郷

この部の秀でたものは實業家でも官吏でも、非常に高い位置には付けないが相當なところまで行くことが出来る。赤色又は汚色あるものは凶相である。

少 府

こゝの秀でたものは、宗教界に於いて名を擧げる。黄色はよく汚色を凶とする。

交 友

朋友關係のことを主とする所である。この部の色も亦、黄色を帯びて肉づきのよいのが吉相で、汚色は凶相である。傷があると朋友と争ふか又は友によりて災厄を受け又は兄弟分離して互に争ふ相である。

道 中

旅行の吉凶を主とする所である。この部分の骨が秀でて居れば遠く出で、高官に登る。この部分の發達せぬものは旅行に出ても災難に遭つたり、海外に出づる役人などには向かない。

交 額

この部分の骨が秀でて居れば、役は低いが壽永く平和な生活を送ることが出来る。

重 眉

この部分の骨が秀でて居ると、小貴ではあるが、性質が猛々しく、人との和に於いて缺くるところがある。

山 林

この部分の骨が秀でて居るものは地方の長官として高位に上る。又山林牧畜などに關係したことを見るところである。即ち山林の賣買とか或は山林に於ける災厄等の類である。山に登るときなどは此の部分を観ることが大切である。

(四) 中 正

中正は印堂の上部に位し、これから横に龍角、虎眉、牛角、輔骨、玄角、斧戟、華蓋、福堂、郊外と並んでゐる。この部は一般の官位殊に地方の中位官祿を主とするところである。

中正の骨秀でたものは地方統治の官吏又は縣會議員その他これに類する職に就いて盛名を得る人である。此の部に黒子又は傷痕のあるものは家庭的に薄運たるを免れない。

龍 角

この部分の骨が秀でて光澤麗明であれば、外交官となつて高位に就き成功を見るものである。

虎 眉

虎角とも云ひ、武將のことを主とるところである。この部の骨肉が秀でたものは將軍となる。

牛 角

多数の人を統率する力についての相を観るところである。この部の骨肉が秀でて居れば軍人ならば將軍、實業家ならば重役、官吏ならば局長次官の位に即く人である。

輔 骨

この部は職業の高下を主とるところで、秀でて居るものは高貴な職業に就き、低くして色澤の悪いものは下賤な職業に付くものである。勿論嚴密に云へば職業に貴賤の別はないのであるが、こゝでは一般的の標準に従つたまでである。

玄 角

この部も亦骨の秀でたもの、黄色の艶あるものを以て吉相とする。

斧 戟

兵器を取る武人の職を主とるところである。

華 蓋

富貴壽命のことを主とるところで、骨が秀でて居れば富貴長壽を得られ、缺陷あるものは死病に犯されるか夭折するものである。

福 堂

この部は福祿を主とする所で、骨肉の秀でたものは地方の長者となるか或は富貴な官位に就くことが出来る。

郊 外

こゝの秀でたものは、高貴の人の側近に奉仕する官位に付く。

(五) 印 堂

印堂は眉と眉との間で、觀相上可成り重要な部位である。別に命宮、明堂なども云ひ、

古い醫書では闕庭と云つてゐる。印堂の横には交鎖、蠶室、林中、酒樽、嬪門、劫門、巷路、青路の部位がある。

印堂は目的希望の成否、印綬官祿の如何を観るところである。

この部の廣いものは寛仁大度の氣性がある。豊麗なるものは財祿に恵まれる。豊潤満明なれば天下に名を揚げる。この部の肉が起つて光潤なるものは貴人に近より幸を得る。缺陷あるものは兄弟分離するか或は中年に大病に罹かる。この部が低くして落ち入つたやうになつて居るものは故郷を離れる、女は縁が變る。この部に黒子、癍痕、痣などのあるものは一生萬事に障りある相である。豊廣にして傷なきは長壽、狭くして枯れたやうな色艶のものは短命である。この部に縦横の理紋があれば劍難又は一生に障るほどの窮困なる事に遭遇する。川の字紋があれば妻を尅し先祖の家を破つて他國に走り中年に大難がある。八の字の如き理紋があれば一生事を成し名を揚げる事が出来ず、いはゆるうだつの揚らない人間で、女ならば妬み心が強く、又家庭運がわるい。八の字の上下が同様に開いたやうな理紋があるのは卑賤下愚の相で男女共に立身が遅く、一生人をうらやみ其の身は寒苦する。

交鎖

刑訟のことを主とるところである。豊麗なれば一生刑訟についての難に遭ふことがなく、汚色缺陷あるものは刑訟の厄に遭ふことが多く、それがために壽を縮め或は生命を失ふことがある。

蠶室

家庭の主婦或は一般婦人についての事を観るところで、汚色、癍痕、黒子等のあるものは嫉妬深く、常に家庭に風波が絶えない。

林中

徳望の如何を見るところ。平満にして艶あるものを吉相としこれに反するものを凶相とする。

酒樽

この部分に缺陷があつたり又は汚色あるものは酒色のために身を破ることがある。

續 門

この部分が豊満なれば夫は貴く妻は榮え、夫婦和合して一家圓滿の相であるが汚色又は缺

劫 門

この部分は平満にして色澤の宜しきを以て吉相とする。若し徒らに發達して居ると無益の

巷 路

出入の吉凶を見る所。

青 路

公事についての行動の吉凶を見るところで、平満にして色澤のよきを吉相とする。

(六) 山 根

山根は兩眼の間で、主として物質的方面の吉凶を主とするところである。山根の横の部分には三陽三陰、魚尾、奸門、天倉、天井、天門、玄中の部位がある。山根の骨が隆起して釵股の如く、稜があつて恰かも刀の背の如く、それが鬢の邊まで伸びて居り、或は新月の如き形をして明潤なるものは、武人なれば大將軍となり、僧道に入れば萬人に仰がれる身分となる相である。此の部分が凹んで居るものは長壽を保つことが出来ない。この部に黒子、痣、傷などのあるものは慢性的の病氣に悩まされるか又は時に思はざる災禍を受けることがある。この部分が低く陥つて居るものは肉親についての不幸を見ることが多く、又孤獨薄縁を免れない。この部分に汚色あれば財運に恵まれない相である。

三 陽 三 陰

三陽三陰といふのは山根に續く部分であるが、相法の書によつて眼の上(眼瞼)とするもの或は下とするもの、或は左を陽とし右を陰とするもの等いろいろあるが、神相全編正義には左眼上を陽とし右眼上部を三陰の部位としてゐる。三陰三陽が明淨なれば地位貴く子孫繁榮の吉相である。太陽太陰の骨が秀起するものは高官に昇ることが出来る。この部が紅黄色

を帯びた艶あるものは吉相であるが、青白黒赤或は汚色あるものは凶である。

魚尾、奸門

共に目尻である。魚尾に缺陷あれば妻を尅すること再三で、常に住居家内に辛勞あるか不足あるの相である。魚尾に筋の多いのは妻が變るか或は外情を好むなど常に苦情が絶えない魚尾の筋が太いか或は深いかして奸門に續いて居るのは再三妻を離別する。魚尾奸門の邊に十字紋あれば妻との間が圓滿を缺き家庭に風波が絶えない。奸門の肉厚く潤明の色あれば妻縁よく家内繁昌の吉相である。奸門の肉が薄くて凹んで居るのは住居と妻の縁が薄い。魚尾奸門の邊に故障があるのは女難の相である。

天 倉

豊満にして光澤のあるのが吉相で傷や汚色あるものは凶相である。

天 井

この部分の豊満なのは財運がある。

天 門

この部分が豊かであれば、肉親及び朋友或は目上の人の助力救援を得て繁榮を見る相である。

玄 中

俗にこめかみと稱する部分である。こゝに汚色あれば肉體内部に缺陷があつて長壽を保ち難い。豊かに廣くして傷や黒子などのないのが吉相である。

(七) 年 上

山根に續く下部で、こゝは主として壽命の長短及び健康の如何疾病の有無吉凶を見るところである。年上の横には夫座、長男、中男、少男、外男、金櫃、禁房、賊盜、書上、正堂等の部位がある。

年上に縦横の紋が入り亂れて居るのは妻を尅する相である。黒子などのあるものは財運に恵まれない。青色あるものは病災多く長壽に恵まれざる相である。

夫 座

男は右を妻座として女は左を夫座とする。名稱の如く夫妻についての吉凶を見るところである。

長 男

左を長男右を長女とする。平満にして光澤あるものを吉相とする。臥蠶即ち目の下のふくれたところが重なつたやうに見えるのは壽長からぬ相で、老人などによく見受けることがある。涙堂即ち臥蠶の下の低い部分が陥つて居るものは子を尅し子孫育ち難き相である。臥蠶涙堂の邊がむつくりとして高ければ男女ともに色情が深い。臥蠶が水ぶくれのやうに肉の高く起るは其の妻の妊娠せる相である。

中 男

紅黄の色あるものを吉相とする。

少 男

昏黒な色澤なるものは不健康であるか兒孫に恵まれざる相である。

外 男

妻及び子についての吉凶を見るところで平満なのが吉相である。

金 櫃

財運を見るところ。傷及び黒子黒痣などがあるのは凶相で、平満明潤なのが吉相である。

禁 房

こゝに蒼黒の氣が現はれると外部よりの災禍即ち盜賊などの災に遭ふ惧れがある。

賊 盜

昏暗な色あるものは他人の物を盜む心あるものである。

遊 軍

旅行又は出張などについての吉凶を見るところで、平満明色なれば地方へ出でて吉祥を見るが、汚色又は缺陷あるものは難に遭ふか不利を見るものである。

書 上

文書又は學問の吉凶を見るところである。



王 堂

家庭運を見るところで、汚黒の色は凶相である。

(八) 壽 上

壽上は鼻柱の中程の部分で、主として天賦の壽命を保ち得るや否やを見るところである。壽上の横には甲匱、歸來、堂上、正面、姑姨、顴勢、姉妹、兄弟、外甥、學堂、命門の部位がある。

年上と壽上との間に縦の筋があれば、實子はあつても養子をしなければ名跡の立ち難い相である。この部分が秀でて他との鈎合ひがとれて居れば長壽の相であるが落ち窪んで居るものは天壽を保ち難い。又長壽を得られない。色澤の清澄なものは長壽であるが濁つたものは短命である。

甲 匱

この骨が秀でて居れば、女は所謂氏なくして玉の輿に乗り、男は高位高官に昇る相である。この部位は又財運を見るところで、骨が秀でて明澄な色澤のあるを吉相とする。

歸 來

人の出入を見るところ。

堂 上

六親の吉凶を見るところで、紅黄の色澤あるものを吉相とする。

正 面

人の性質を主として見るところ。汚色又は缺陷あるものは性質が正しくない。又鼻疾に犯されてゐることを示すものである。色澤が明澄で不快の感じを與へないのは性質が正しい相である。

姑 姨

妻の母及び妻の兄弟についての吉凶を見るところ。豊満なものは姑姨について吉、色艶の悪いものは凶である。

顴 勢

顴骨の高くなつた部分で權勢を主とするところである。豊満なるを盛運とし、枯れて色澤の悪く低いものは生活の弱々しいことを示す。然し餘り出張り過ぎて他と不調和なほど隆起して居るのは、強情であるか性質が素直でない。所謂頑固な性質であることを現して居る。

姉 妹

姉妹についての吉凶を見る場所である。左の兄弟に對して右を姉妹と云ふ。こゝに缺陷あるものは姉妹を尅する相である。

兄 弟

豊満にして色澤明潤なれば兄弟について幸運である。

外 甥

平満にして色澤のよいものはよいが、昏暗な色をして居るのは外甥なきか或はそれについて凶なる相である。

學 堂

學問文才のことを主とするところで豊隆にして色澤明潤なるを吉とし、缺陷のあるものは學問文才なく、又それに不向きの相である。

命 門

この部分の骨が秀でて居るのは長壽の相、陷つて居るのは天壽を全うし得ざるか又は短命の相である。命門はすべて綺麗にして傷の無いのがよく、こゝに疵があると中年に不義不正のことで汚名を被るの憂ひがある。

(九) 準 頭

準頭は鼻の頭で、この横には蘭臺(左)、廷尉(右)、法令、竈上、宮室、典御、園倉、後關、守門、兵卒、印綬の各部位がある。準頭が圓かにして肉有り色澤明潤なるは一生富貴にして長壽の相である。準頭の肉が薄く瘦せて尖る如きは不正凶惡の相、婦人にして斯かる相のものは夫を尅し子供運に恵まれない。準頭に陷穴あれば他人の譏りを受けることがある。

準頭の豊満なるは物質的に恵まれてゐる相であるが、貧弱に枯れ凋んだやうなものは、生涯物質的に恵まれない相である。

蘭 臺、廷 尉

これは左右の小鼻で、左を蘭臺、右を廷尉と名づける。左右の小鼻に大小があるか或は變異があれば物事が成功せず失敗多き相である。小鼻は張りがあつて活氣が満ち溢れて居るやうに見えるのは聰明にして活動性を現す相である。小鼻に締りのないのは色情に深く女難の相である。小鼻の張り過ぎたのは性質が強情である。小鼻が大きければ度量が大きく小さければ小心なることを示す。

法 令

法令といふのは小鼻の兩側にある皺溝で主として權勢の盛衰強弱を主とする線である。法令の筋が深くて正しいのは先祖が正しく、筋が薄くて淺いものは先祖が賤しいことを現してゐると云はれるが、これは一定しない。法令が上昇して左右へ開き、筋正しくして深いのは大いに貴相で、官位にある人ならば高位高官に昇つて權名を振ひ、野にある人でも成功を得て

名聲を揚ぐるものである。一方の法令が二筋になつて居るものは、先祖の業を變るか又片親が異ふか、親の財産を譲り受けることなく、別に家を起すか養子に行くの相である。法令の尾部が口に流れ入るものは五十前後に大難あるか大病にて命を失ふ相であるから言語飲食を慎しむことが大切である。法令に長短があるか或は缺陷があれば早く片親に別れたか度々家業が變る相である。法令が開いた地閣を過るものは妻帯と云つて無病長壽の相である。法令の筋が消えてその形のはつきりせぬものは家業と住居について辛勞がある。法令の筋の間が狭くて長いものは老いて子孫を尅し食事に任せ難き相である。法令の筋に黒痣のあるものは家業に妨げあるか或は自己の料簡を以て事を破るか何れ一度は身上敗破することがあり又親と同居成り難き相である。眼の下三陰三陽の邊より法令のやうな筋が下りて法令と同じく一緒に口に入るものは毒にあつて死する相である。法令の筋が口に近いのは凶で遠いのを吉とする。婦人に法令のあるのは夫を尅するもので、女には法令の筋なきをよしとする。

竈 上

この部が平満で色澤がよければ田宅のことについて吉祥の相である。

宮 室

この部に缺陷あるものは家庭運がよくない。

典 御

この部の豊美なるものは多くの使用人の上に立つ人である。

園 倉

この部は食祿の位である。

後 閣

こゝに缺陷あるものは他人の家に寄食する相である。

守 門

地倉とも云ひ、財祿のことに見るところである。豊かにして色澤の美しいものを吉とする

兵 卒

この部に缺陷あるものは兵卒の如く下級に停滞して上級へ上らない相である。

印 綬

軍門又は兵人などとも云ひ、この部の秀でたものは武人となれば出世する相である。

(二〇) 人 中

人中といふのは鼻の下の溝である。鼻を山とし口を海とするが故に人中は山海通路の溝滄である。人中の横には井部、帳下、細厨、内閣、小使、僕従、伎堂、嬰門、博士、懸壁等の部位がある。

人中が深くて端正なものは金銀の出納が多く萬事の通路がよく澁滞することが少いから物に困窮不自由しない。人中の溝が深いものは子供が多い。深くとも陷缺あるか横に筋などがあれば必ず子孫に別るゝことがある。人中の溝が浅くて不分明なものは子供運がない。人中に疵あるか偏曲なるものは短命で子供がない。人中が浅くて反りかへつて居るやうに見えるのは愚賤の相である。人中の不正なるものは夫婦不和にして家庭圓滿ならず子女にも縁なきものである。

井 部

田宅の豊凶如何を見るところである。

帳 下

この部の豊かなものは臺所向きが貧窮でない。

細 厨

飲食運の吉凶を見るところ。平満なるものは食に窮することがない。

内 閣

住宅についての吉凶を見るところである。この部が豊かにして色澤のよいものは大なる邸宅に入る相で、疵や缺陷又は痣などのあるものは生涯九尺二間の裏住居に甘んじなければならぬ相である。

小 使

この部が豊かで色澤がよければ多くの使用人を使ふ身分になれる相である。

伎 堂

妻妾のを見るところである。

嬰 門

嬰兒のことについての吉凶を見るところである。

博 士

醫師やト相家について見るところで、この部に缺陷があるとそれらの職業に就いても成功しない。

懸 壁

頰骨の一寸ほど下の横で腮骨の前である。此部位に缺陷、痕削、痘疵の類があれば先祖の家名を破るか或は親から譲られたものを東西に散らしてしまふ相である。此部に青黒の色が出れば盗難に遭ひ又目下の者が物を奪つて去る相である。此部の血色がよければ家内和順であるが、色が悪いと何となく家内が納まらず無益のことに辛勞する相である。懸壁の骨肉が秀でて居れば奴僕運がよく、陥入つて居るものは奴僕がない。

(一一) 水 星

水星は即ち口のこと、この横に閣門、比隣、委巷、通衢、客舍、兵蘭、家庫、商旅、生門、山頭等の部位がある。今この位置を地勢に例へて見ると、上は四嶽(兩額骨、額、鼻)に通じて百流を呑納し萬壑の朝まる所、下は一身を潤ほす所で甚だ重要な位置に在る。口は常に目だたずして物云ふ時に潤く大なるをよしとする。物を言ふときに口の隅即ち海角の上るのは大いに貴相であるが、反對に海角の垂れ下るのは失職するか或は實情が薄く他の憎みを受ける相である。口は方潤にして唇紅齒白なれば文官なれば大臣となり、武門なれば將帥となり又桑門なれば國師の號を賜はる程の名僧となり、俗人と雖も發達高榮を得る相である。唇が薄く尖つてゐるのは貧窮孤獨或は偽り多き人の相である。海角の端正なるは義信貞明の人である。口の偏曲なるは晩運が悪く。五十以後からは出所進退に心を用ひないと官職に障り家名を失ふことがある。口が小さければ身上家業も小さい、拳のはいる位なれば

客 舍

物事の出入についての吉凶を見る所である。

通 衢

くして色澤の美はしきを吉相とする。

比隣よりも更に範圍の廣い即ち郷人などとの關係を見るところで、いづれも缺陷などが無

委 巷

隣近との交際如何を見るところである。

比 隣

閨房の深淺を見るところである。

閨 門

萬事について規模が大きい。唇の色が黒くしてバサバサしてゐるのは破財の相。唇の黒痣は衣食豊かなれども水厄慎しむべきである。女なれば多淫の相である。唇が青いのは肝癪持ちである。上唇が出てゐるのは粗忽の相。下唇が出てゐるのは物に理窟ばる人である。

こゝの美事なものは客となつて優待される。

兵 蘭

一名兵列とも云ひ、この部が秀でて居れば多くの人の上に立つことが出来る。又武人となつて好運に恵まれる相である。

家 庫

又家倉とも云ひ、この部が豊麗なれば衣食足りて窮することなき相である。

商 旅

商賣についての吉凶を見るところ。この部が秀でて居れば利を得ることが多い。

生 門

奴隸の生殺を主どるところ。

山 頭

開頭とも云ひ、この部が秀でて居れば出入りが滞滞せず諸事順調に運ぶものである。

(一一一) 承 漿

承漿とは下唇から顎までの間の部分を云ひ、この横には祖宅、孫宅、外院、林苑、下墓、庄田、酒池、郊郭、荒丘、道路の各部位がある。

承漿の骨肉秀起するものは富みて酒食に不自由せぬ相である。この部に黒子があるものは酒肉の慾が多過ぎるために我身を亡ぼすに至る相である。この部分の肉が薄いか缺陷があるか或は横紋などがあると住所の苦勞が多く水難の懼れがある。この部に髭あれば木厄を防ぐから吉相である。

祖 宅

住所、家屋敷等についての吉凶を見るところである。

孫 宅

兒孫が家に居るか或は他郷に出づるかを見るところ。缺陷あるものは兒孫が他郷に流離す

る相である。

外 院

家屋敷或は田畑等のことを見るところである。

林 苑

山林などについて見るところである。

下 墓

墓地について見るところである。

庄 田

宅地田地等についての吉凶を見るところで、明潤なるものは良き土地を持ち、又土地につ

いての辛勞事も無い。

酒 池

この部の豊麗なものは衣食に窮することがない。

郊 郭

飼養せる畜類についての吉凶を見るところである。

荒 坵

下墓と同様の部位である。

道 路

旅行又は遠く出でて商賣をすることの吉凶を見るところ。

(一二) 地 閣

地閣はおとがひである。地閣の横には下舍、奴僕、碓磨、坑塹、地庫、陂池、鵝鴨、大海舟車の各部位がある。地閣は肉豊かに色澤明朗なのがよい。地閣に疵があると親の名跡を破る。地閣に黒子があると家宅に恵まれない相である。地閣が狭いか尖つて居ると食祿に恵まれない。頸の左右の肉が二重になつてゐるものは富貴である。俗に鎗頤と稱するものは住居について辛勞多く、壽命はあつても常に愁しみが多く晴やかでない。後へ引込んだ如き頤の



人は疎忽の性質である。中部が凹んで瓶の底の如き形の願は親の家を捨て、他の名跡を繼ぐ相である。二重願は晩年ほど幸福が多い。突出した願の人は理窟つぼく人に厭やがられる相である。

下 舍

外房即ち地内に於ける他棟の家の多い少いを見るところで、缺陷あるものはそれが無い。

奴 僕

この部分の肉が薄く狭いのは部下に忠節の者なき相、又甚しき缺陷があれば目下の者について災難を招くか又は水厄の惧れがある。

碓 磨

家庭内の重要な器具があるかどうかを見るところ。

坑 塹

家の周囲に堀などがあるかどうかを見るところである。

地 庫

一名地倉とも云ひ、すべて此邊の肉が豊かなれば忠節なる部下を得且家豊かに繁榮を見るものであるが、疵あるか狭きか短かければ家住に心配不足なる事が多く、又目下に縁なく年老いて妻に別れ子に離れ、壽あるも不幸を見る相である。

陂 池

地沼などについて見るところ。この部に缺陷があれば地沼水田などについて辛勞事が多いか或はそれによつて難に遇ふことがある。

鷓 鴨

飼鳥について見るところである。

大 海

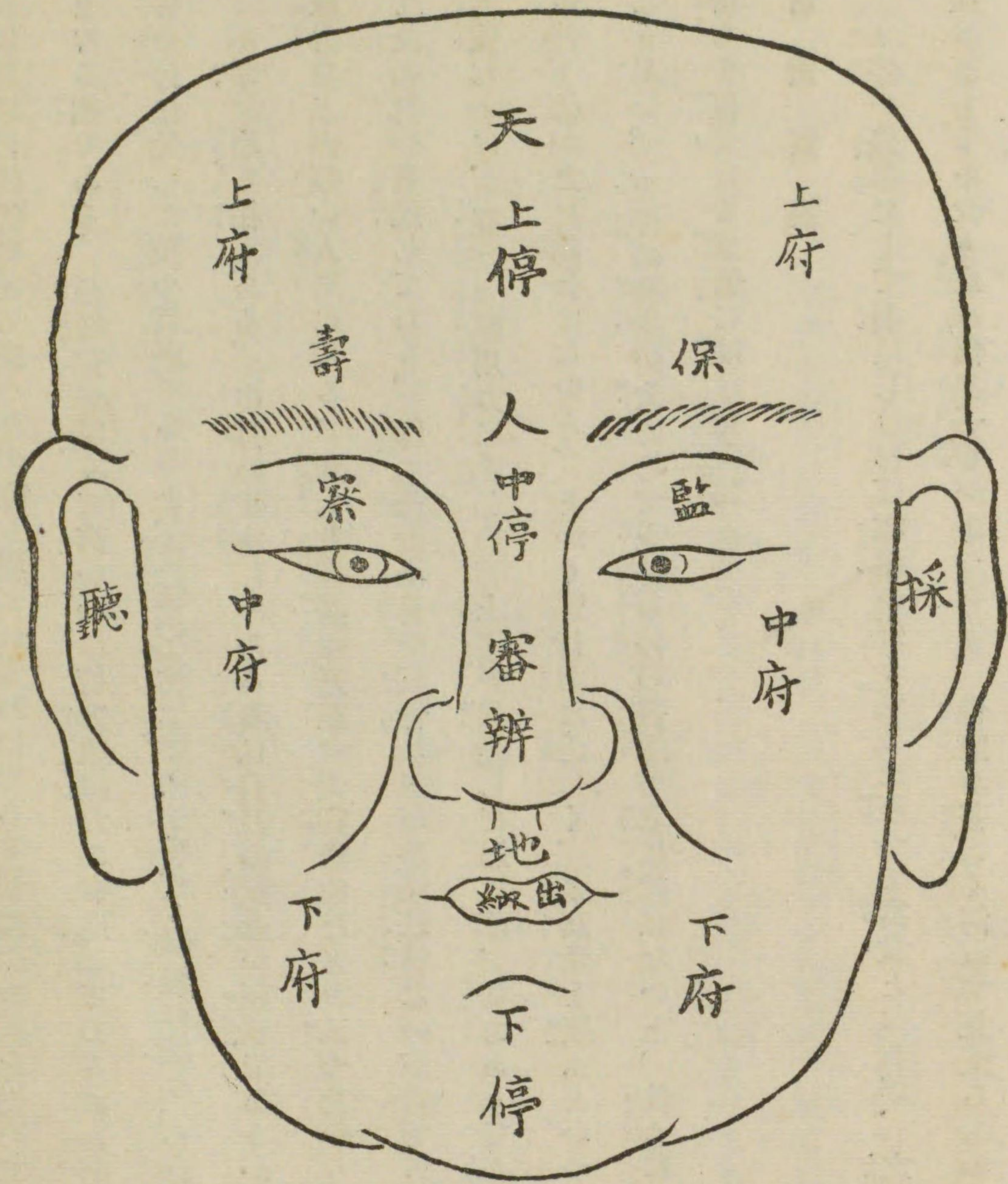
水に關係したことの吉凶を見るところ。黄色を吉とする。

舟 車

舟車による交通の吉凶を見るところである。

第六章

十二宮及び十三部位以  
外の顔面の種々なる區別



圖の府六官五停三才三

### 三 停

顔面を上中下の三部分に分け、髪の毛の生際から下眉に至るまでの部分を上停、眉間から鼻の頭までの間を中停、鼻の下人中から顎までの間を下停と名づけ、この三部分を三停と稱する。

三停は三才即ち天地人に象どつたもので、上停は天、中停は地、下停は人に象る。これを現代的に云へば、上停は智力、中停は氣力、下停は愛情をそれ／＼つかさどつてゐるのである。またこれを運の方から云へば、上停は初年に配して目上との關係を主どり、中停は中年に配して自己そのものをつかさどり、下停は晩年に配して自分より目下後輩についての關係をつかさどるとも見る事が出来る。

### 知 能 性 格

上停が豊かにして廣いのは智力大にして盛運の相である。前額部は云はゞ頭腦の働き如何を形に露はして居るやうなものであるから、この形容色澤の如何を仔細に觀察すれば、その

人の頭腦の優劣如何も從つて判斷し得られるわけである。額が均衡を失して居ると不良少年となる相である。前額部が廣くて高いのは智力道德力の發達してゐることを示す。上停が中停下停に比して狭小貧弱であると、愛情の念に薄く、とかく傲慢に流れ、われから運氣を破つて不幸に陥る相である。中停の發達してゐる者は自我の觀念が旺盛であるから、權力、野望、威力などの強い人間になる。即ち英雄豪傑乃至は大實業家などと云つたやうな人物は、概して此の部が發達してゐる。即ち鼻や小鼻や顴骨などが豊滿旺盛なのが常である。上停の薄小尖狭なのは、觀察力應用力に乏しい。上停が發達して居れば、智力ありて心性高潔であるが中停下停が之に鈎合はないと、とかく實行力に乏しく、孤高世を厭ふといったやうな傾きになり易い。下停の發達が大にして上停中停の發達が之に伴はないと、徒らに物慾心のみ強く智力や優美なる感情に缺けた人間となる。

富 貴 貧 賤

下停が豊厚にして美はしければ福運が強老後に至つて富貴となるが、之に反しこの部が缺け落ちてゐたり或は傷黒子等があつたり、色艶が甚しく汚れて見えるものは、上停中停が

相當よくても、終りを完うすることの出来ない相である。上停が殊更に發達して居るのは、貴の相ではあるが、之に比例して中下停の發達が十分でないと、物質的の榮譽に於いて恵まれない相となる。下停の發達が豊厚であれば、衣食住居等の物質的方面には恵まれても高等優美な感情なく、俗惡なる趣味に溺没するものが多い。下停が尖斜肉なきものは生活の豊かに恵まれること薄く、多くは貧困薄運にして晩年がよくない。

家 庭 運

中停即ち主として顴骨や鼻や小鼻が發達してゐるのは、時にとつては世上を驚倒するやうな働きをすることもあるが、家庭的の好運には餘り恵まれない方で、殊に女性でこの部が突出發達してゐると、とかく子女に縁なく、世間的の聲譽はあつても家庭的平和的の方面には甚だ薄運で、獨身で終ることが多い。中庭の色澤が醜惡汚穢であると妻子に死別し自己の生命も我れから失ふことがある。下停の短小なものは家庭の愛に冷淡で孤獨なる生涯に陥ることが多い。女性にして下停が殊更に發達して居るものは良人を尅して家庭が平和でない。下庭が豊滿で色澤が美はしく傷や黒子などが無ければ、夫婦の間が圓滿で兒女は孝道に厚く、

家業の繁榮を得るものである。人中や法令に傷があると不孝の子を出だす相である。

壽 命

中庭が豊満で色澤がよければ健康である。上庭が狭く美しく美しい光澤があれば健康長壽の相である。下庭が汚い色をしてゐるのは疾病の相である。中庭が間伸びて色澤が悪いの、中年に於いて疾病に犯される相である。中庭が醜く汚れて居ると病難が絶えず、自から生命を縮むることがある。

五 官

(1) 保壽官(眉)

眉は眼より高きこと凡そ一寸、毛並が綺麗で色が明潤で細長なれば兄弟の縁が良く長壽である。又藝能あれば大いに發達高名を得るに至るものである。

(2) 採聽官(耳)

耳は常に色が紅潤鮮明で肉が薄からず、輪廓豊正に偏曲屈歪せずその形が整つて居るものは壽有つて子孫宜しき大貴相である。

(3) 鑑察官(眼)

眼は相法第一の處で、心神の虛實動靜又その清濁を観るの處である。

(4) 審辨官(鼻)

鼻は豊隆に肉厚く大にして血色麗しきは中年大いに宜しく發達榮昌を得る。又肉が薄いか偏曲短小なるか色が赤いのは寒苦貧賤の相である。

(5) 出納官(口)

口は海角が豊正で唇が偏尖ならず紅潤に且齒並の宜しいものは言語に實情多く義信の意氣ある人である。

古書には「この五官のうち、一處でも吉相を具備して居るものは十年の富貴を得て子孫に榮名を傳へ、又若し一處でも缺陷痕削あるか或は肉が薄く枯焦して血色が潤明ならざるものは運が滯滞して發達立身に障るものである。」とある。即ちこの五部位は、相法に於いて第一

に見るべき重要な箇所なのである。

### 五 星

五星とは、顔面に於いて相法上重要な五つの箇所にそれ／＼木火土金水の五星を當て嵌めて名づけたものである。

#### (1) 火 星

火星は額である。額は髮際が高く清らかで色澤明潤に肉付き豊厚にして格好のよいものを以て吉相とする。かやうな額の人は官祿功名を得て繁榮するものである。特に智的の職業にたづさはる者は、この部の發達し秀麗なることが必須條件であることは、額の凸出して居るものは賢いといふ俗間の云ひ慣はしを見てもわかることである。額は火星であるから、火難の有無を相するところともなつてゐる。この部分に傷や癢痕などがあるとその人の運を一生抑へるものである。俗に「向ふ疵」と稱して昔はこの部分に傷のある者を讚美したものであ

るが、これは單に卑怯でないといふ證據に過ぎないので、相法から云へば吉相とは云はれない。且つその人の生涯を仔細に検討して見れば必ずや凶運に見舞はれて居ることが首肯されるに違ひない。

#### (2) 土 星

土星は鼻である。土は萬物を生じ金銀等の財寶を藏するところであるから、鼻は主として財運の高下、財についての辛勞災禍の有無を見るところとされてゐる。鼻は、山根から準頭に至るまで豊隆直正にして肉厚く血色よく膽を懸けたやうな格好をして居るのを吉相とするかゝる鼻を有する人は福祿壽の三徳を得るといはれる。反對に偏短で肉の薄い鼻は中年に於いて非運に見舞はれるか貧困であるか、終りを全うすることの出來ぬ相である。

#### (3) 水 星

水星は口である。故に口の相を觀取して水に縁のあること例へば河海渡舟の吉凶とか水難の有無とかを判することが出来る。口は海角即ち口の隅が正しく豊潤にして唇の色が紅潤に齒並の宜しいものは義實堅固にして衆人に愛せられる相である。

(4) 金星 (5) 木星

左の耳を金星、右の耳を木星とする。耳は左右ともに輪廓分明にして正しく、眼の高さよりも一寸位高いのが吉相で、斯かる耳を有する人は發達長壽を得るものである。耳の大小については、古書などを見ると不論とあつて、さして吉凶に關はらないやうに説いたものもあるが、孰れかといへば、大きいものゝ方がよい。小さい耳の人は心性が細やかなところはあるが、萬事に規模が小さく且物に不自由する相である。然し、耳が大き過ぎるのもいけないかゝる人は賤婦を妻とするものである。

六 曜

六曜とは、前述の五星と同じやうに顔の各部に六つの星をあてはめたもので、その名は太陽星、太陰星、羅喉星、計都星、月孛星、紫氣星の六つである。

(1) 太陽星 (2) 太陰星

左眼を太陽星と云ひ右眼を太陰星といふ。眼は黑白分明にして所謂切れ長の眼で、而も眼彩人を射るが如きは大きいに發達し高名を得る相である。

(3) 羅喉星 (4) 計都星

左の眉を羅喉星といひ、右の眉を計都星といふ。眉は左右の釣合がよく毛並が揃うて中斷せず、美はしき艶あるものが貴相である。眉は兄弟の有無、壽命の長短、藝術等の成不成を觀るところでその形が新月の如きものは兄弟の縁がよく長壽で、甚だしく濃厚だつたり、猪の毛のやうに硬いものは賤相とされる。

(5) 月孛星

月孛星は山根即ち鼻の上部眼と眼との間を指す。この部分は直正にして豐滿光潤なるを貴相とする。かゝる相を具へて居るものは食祿が豊かで、たとへ始めは貧窮なるも遂には隆盛吉祥に至るものである。若し狭くして尖り骨を露はすものは三十歳前後に於いて破財困窮に陥るものである。又陷凹し、痣或は疵あるものは妻子を尅し産業破るゝの相である。

(6) 紫氣星

紫氣星は印堂即ち兩眉の間を指して云ふ。この部分は潤明にして缺陷故障のないものが吉相で、斯かる相を有する人は貴壽共に享受することが出来るものである。又山の字の紋があれば武將となつて成功する。而してこれに蘭臺廷尉が來つて朝する勢ひがあれば、いよく官祿が盛んに財寶満ち足るの相である。

## 六 府

六府は上中下とあり、その各々に左右があつて合せて六つになるわけである。

### (1) 上 府

上府は左右の兩天倉を云ふ。此の部位に缺陷なく肉厚く豊満にして常に血色のよいものは一生富貴榮昌を主とする。初年發達をなし、金銀家倉に満るの相である。若し此の部に缺陷があれば、父母についての運が弱く、且初年の運が宜しくない。

### (2) 中 府

中府は左右の兩額骨を云ふ。此の部位の肉が起つて豊厚に、高く正しきものは衆人の頭となつて尊敬を得、官家武門なれば高祿高位を得、常の人にも大いに宜しき相である。又中年の運がよい。

### (3) 下 府

下府は頤の左右を云ふ。この部位の肉が豊満で缺陷なく、角張らず、血色が常によいものは家倉が豊かで晩運がよい。頤の尖つて居るものは財祿に恵まれず、意氣地がなく晩運がよろしくない。

## 三 才

三才は天、地、人の三つである。

### (1) 天

上停即ち髪の生え際から眉に至る間を指して云ふ。此の部分の肉附きが薄く尖つて額の格



好ちが悪わるく且かつ陷かん穴くつあれば、初しよ年ねんより親おやに別わかれ、寒かん苦く窮きう困こんの生せい活くわつに喘あえがねばならぬ。反はん對たいに肉にく豊ふたかに血けつ色しよくがよいものは大おほいに發はつ達たつするものである。

(2) 地

地ちは下か停てい即すなはち準じゆん頭とうより頤いたに至いたる間あひだを云いふ。此この部分ぶぶんの格かつ好かうが悪わるく長ながきか又また付なはしく頤おとが短ひかく肉にく薄うすいものは住ぢゆう所しよと財さい運うんが薄うすく、老ろう年ねんになつて子こに離はなれることがある。これに反はんして、肉にく豊ふたかに血けつ色しよくのよいものは、一いち生せう不ふ自じ由じゆうをすることがない。

(3) 人

人じんは中ちゆう停てい即すなはち眉まゆより鼻はなの頭あたまに至いたる部分ぶぶんを云いふ、此この部分ぶぶんが偏へん曲きよくにして短みじかく、缺けん陷かん理り紋もんの多おほいものは、中ちゆう年ねんに大たい病びやうを患わづらふか或あるひは艱かん難なん破は財さいに遭あふことがある。豊ほう高かう端たん正せいに肉にく厚あつきは壽じゆう有あつて大おほいに富とむ相さうである。

五 嶽

五ご岳たけとは、顔かほ面めんに於おける五ご樞しゆ要やう高かう所しよの稱しょうで、南なん岳たけ、中ちゆう岳たけ、北ほく岳たけ、東とう岳たけ、西さい岳たけを云いふ。

南なん岳たけは額ひたひで、一いち名めいを衡かう山さんとも云いふ。額ひたひは初しよ年ねんの運うんを見みるところであるから、この部ぶが秀ひいでて居ゐるものは、幼せう年ねんに於おいて幸かう運うんであるか、或あるひは少せう年ねんにして名なを擧あぐるものが多い。

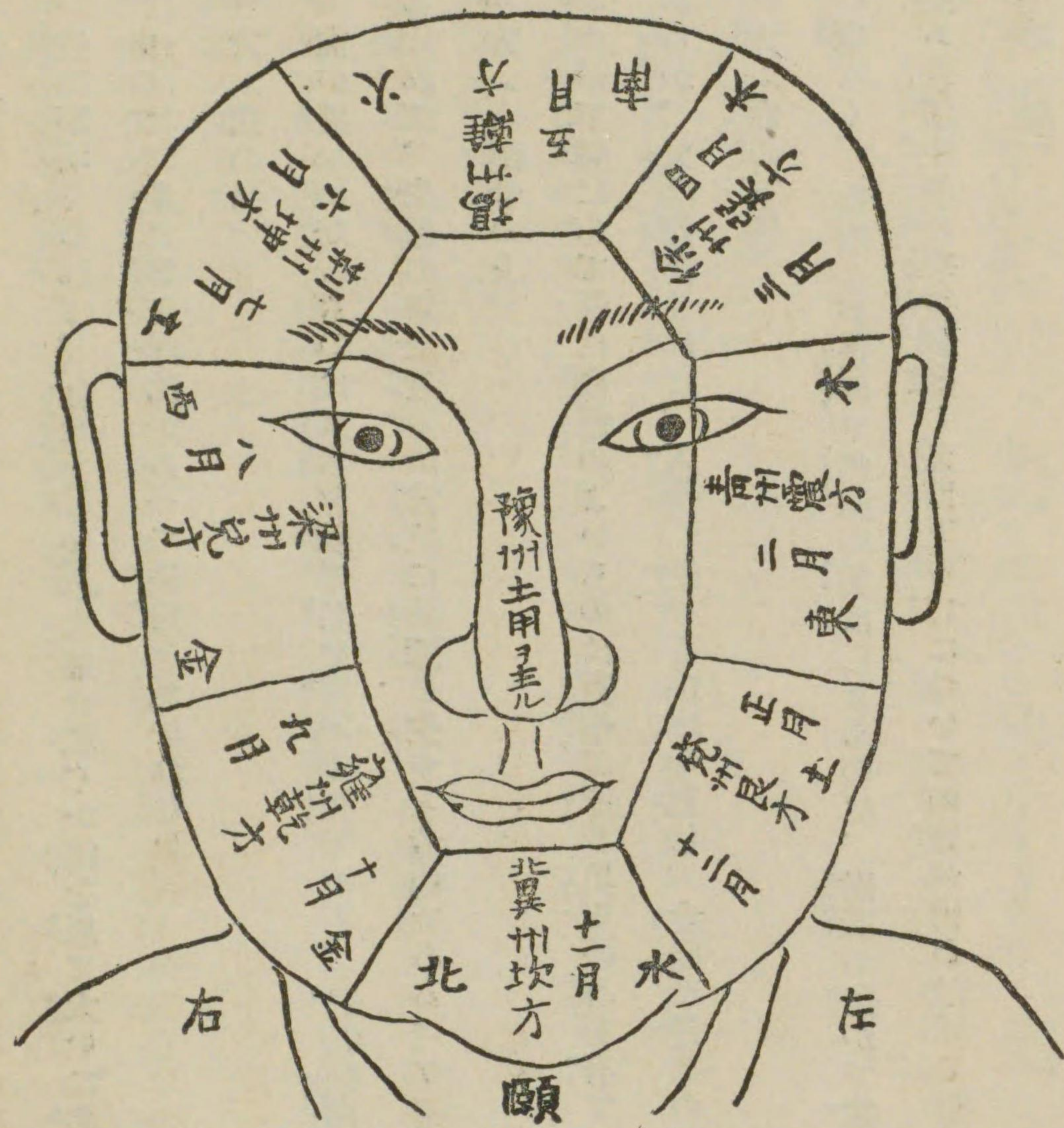
中ちゆう岳たけは嵩かう山さんとも云いひ、鼻はなを指さして云いふ。中ちゆう岳たけは兩りやう頰けつとの鈎つゝ合あひがとれて秀しゆう麗れいなものがよい。又また中ちゆう岳たけは顔かほの眞ま中ちゆうにあり、五ご岳たけの中心ちゆうしんをなすものであるから、可かなり重ぢゆう要やうな場ば所しよである。

北ほく岳たけは一いち名めい恒かう山さんといひ、地ち閣かく即すなはち頤おとを云いふ。この部分ぶぶんは、晚はん年ねんの運うん勢せい、その人ひとの財さい運うん意い志しの強きやう弱じやく等たうを觀みるところで、豊ほう滿まんなのがよく骨ほね張はつてゐたり尖とがつて居ゐるものは凶きよう相さうである。

東とう岳たけ及および西さい岳たけは兩りやう方ほうの頰けつ骨こつで、左ひだりを東とう岳たけ、右みぎを西さい岳たけといひ、それ〴〵泰たい山さん華くわ山さんの別べつ名めいがある。但たゞし婦ふ人じんは左さ右みぎを反はん對たいに云いうて居ゐる。

四 瀆

四し瀆とくとは、五ご岳たけとは反はん對たいに顔かほ面めん中ちゆうの低ひいところ、いづれも汚を物ぶつを出だすところから四し瀆とくと



九 州 八 卦 の 圖

名づけたのであらう。即ち眼を河瀆、人中即ち鼻下の溝を濟瀆、口を淮瀆、耳を江瀆と云ふのである。この部分は常に汚色なく、他の區劃がはつきりとして明朗なのがよい。例へば、眼が赤く濁つてゐたり、耳が煤けたやうに黒かつたり、鼻の下が赤くなつてゐたり、海角が白くふやけてゐたり、準頭が赤かつたりして居るのは凶相で、現今の醫學から見ても、必ず内部に故障のあることを證據だてゝ居る。

又四瀆は水に關係のあるところを見るところで、若し青暗の色か或は黒滯の氣が現れたときは、水邊の往來に注意すべきで、斯かるとき舟に乗れば風荒くして難航となり、旅に出ると雨に逢つたり洪水のために交通を杜絶されるやうなことがある。

### 九 州 八 卦

九州八卦の法といふのは、顔の各部に支那の九つの地方の州名と八卦を次の如く配當したものである。

楊州離方(額)

此處が豐滿潤明であれば、初年より親の名跡を繼ぐか藝を以て大いに名を揚げる。若し偏短曲光なれば其の身に盛衰浮沈があつて破財を免かれない。

荊州坤方(額の角)

此處の肉が豊かに起るものは文字を以て名を揚げる相である。若し缺陷あるか或は肉薄く理紋が多ければ、先祖の家を破るか官位に故障を生ずるものである。

梁州兗方(右顴骨の上)

此處の肉が平滿にして常に血色のよいものは實情が厚く眞正の心を有するものである。若し缺陷あるか、又は偏曲なれば、人情に缺けるか妻を尅し、女難に遭ふの凶相である。

雍州乾方(右の下頬)

此處に疵なく、肉附きが豊厚で色澤の美はしきものは、財祿が豊かで家内が平和である。若し陷缺あれば住所に辛勞が多く又目下の者についての縁が薄い。

冀州坎方(頤)

此の部分に陷缺や理紋がなく、肉附きが豊かで障りなきものは、晩年に至るに従つて次第に強くなり又田畑地面等を所有する縁が厚い。若し疵があると、住所に恵まれず水難に遭ふことがある。

兗州艮方(左頬の下)

此處の肉附きが豐滿で血色が常に宜しきものは、その身が安泰で平和な相である。若し肉附きが薄く疵などがあると、盜難に遭ふか永く貧困に辛勞する相である。

青州震方(左顴骨の上)

此處の肉が起つて高く血色が常によいものは、大いに權勢があつて財帛が家倉に滿ちる相である。若し此の部分に疵があれば、破財困窮の凶運に遭ふことを免かれない。

徐州巽方(額の左角)

此處の肉附きが豊厚なれば、官位が昇進するか、何れ大いに事を成すの相である。若し又缺陷あれば、妻と子供について悲傷事が多い。

豫州中央(鼻)

### 四學堂

此の部分が豊隆直正で準頭の肉が厚く、血色潤明なるものは、無病にして大いに富貴の家を保つべき吉相である。若し疵又は理紋があれば中年に於いて大いに敗破することを免れない。

四學堂といふのは、要するに、眼、額、齒、耳の前に附した別名であつて、名の示す如く主として學門、智育に關係したことを觀るところなのである。

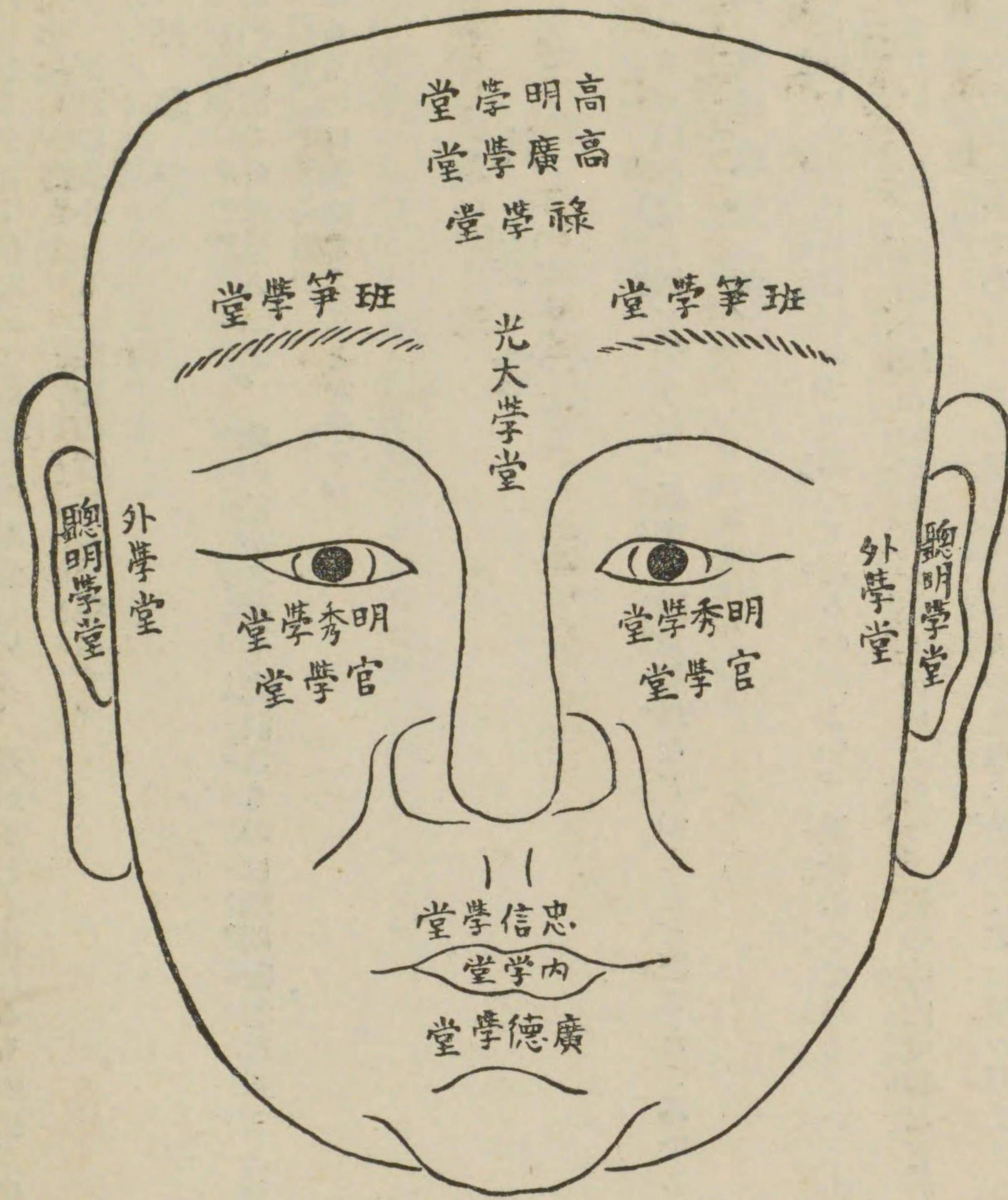
#### (1) 官學堂

眼を官學堂と云ふ。眼は長くして清澄なるものは官職に適し、文才がある。

#### (2) 祿學堂

額を祿學堂と云ふ。額が廣くして曇りなきものは、官壽兩方に吉なるの相である。

#### (3) 內學堂



圖の堂學八及堂學四

門に當る齒即ち俗に云ふ前齒を内學堂といふ。形が正しく密なるものは、忠信孝敬の心が厚く、又疎缺歪小なるは狂妄の性たるを現はす。

(4) 外學堂

耳門の前を外學堂と云ふ。此の部が豊満で光潤なものは聰明叡智なることを示す。若し昏黒なるものは愚昧なることを示す。

八 學 堂

これも亦四學堂と同じやうに、學才、識見智愚などのことを觀るところである。

(1) 高明學堂(頭)

頭は圓いか或は異骨があつて昂つて居るのがよい。異骨あつて昂るといふのは、畸形の意味ではない。俗に烏帽子頭とかピリケン頭とかいふ形で、彼の寺内元帥などの頭はまさしく異骨昂るの好適例である。この種の頭は軍人や數學の教師などに屢々見受けるものである。

(2) 高廣學堂(額)

額は廣くて色つやのよいのが吉相である。

(3) 光 大(印堂)

印堂は平明にして傷痕のないものが吉相である。

(4) 明秀學堂(兩眼)

眼は黒く光つて、神を深く藏するものがよい。

(5) 聰明學堂(兩耳)

耳は輪廓がはつきりして色は白色を帯びた紅色のものがよい。

(6) 忠信學堂(齒)

齒は形が揃うて隙間がなく雪白なのがよい。一般に齒の形が揃うて小さく且つ齒間に隙間のないものは必ず齒が丈夫である。

(7) 廣德學堂(舌)

舌は長く、出せば準頭に達し、色が鮮かなのがよい。

(8) 班 笋 學 堂 (兩 眉)

眉は細く長く、恰かも新月の如く、中斷したり或は左右不揃でないのがよい。

五 行 相 法

われくの全相(顔だけでなく體全體の相)は、各人によつて千差萬別である。顔の圓い人、背丈の高い人低い人、口の大きい人小さい人と云つた風に、いろ／＼あるが、今これを五行の形即ち木形火形土形金形水形の五種に區別し、それによつて各人の性格なり運勢なりを觀ようといふのが此の五行相法なのである。

(1) 木 形 の 相

木形の人、瘦せて背が低く、顔色は青く、頭部顔面が骨張つて居り、目は細く長く、手指も細く長くて紋理が多く、鬚も髪も皆清く、唇が紅くといふやうな特長を具へてゐるのが眞の木形の人である。

木形の人、性質が穩やかであるが、どうしても緩やかに流れる氣味があるから、少しく火氣を帯びた方がよい。さうすれば、正義にして活氣ある人となる。また此の形の人、財運には恵まれないが、官位は相當昇進するものである。故に職業としては、官吏とか軍人乃至は手先の技術を必要とする職、木に關係ある植木、園藝家などがよい。

また木形に金形が混じると、金剋木となつて金のために木質が蠶食されるから、その人は凶運に惱むことになる。これに反して、木形に水形の助けを得たものは、水生木となるから吉相となるのである。

(2) 火 形 の 相

火形は頭が長くして尖り、耳高くして尖り反つてゐる。鬚や髪は微赤を帯び、顔色も赤い。聲音は焦烈で、性質は性急躁暴である。いはゆる氣象の烈しい人なのである。形からいへば、上尖下潤といふ風な人である。かういふ人は、口だけが大きいのはいけない。何故といふと、口は「五星」の項にも述べた通り、水星で水の性なれば水剋火となり、火形本來の性質を削殺するからである。また腹だけ大きいのもいけない。さういふのは運氣の停滯する

相である。

火形くわけいの人は性急せいせきではあるが聰明そうめいで早く家いえを興おこしはするが、木形もくけいと同じく、萬金まんきんを積つむといふやうな財運ざいゆんには恵めぐまれぬ形かたちである。職業しやくげふとしては軍人ぐんじんが最もよく、その他官公吏ほかくわんこうり、技術ぎじゆつ家かなどが適當てきとうである。

火形くわけいの人は、水形すゐけいが餘あまり強く加くはるといけない。例たとへば頭あたまや鼻はなが尖とがつて耳みみが高く附ついて居ゐるのは火形くわけいであるが、これに肥ふつて色いろが黒くろかつたり、或あるひは口くちが無暗むあやみに大おほきかつたりといふやうな水形すゐけいが加くはると家庭運かていゆんがよくない。それから一言斷ごんごんはつて置おくべきことは、火形くわけいに水形すゐけいが混加こんかしたのか或あるひは水形すゐけいに火形くわけいが混加こんかしたのかといふことは、よく觀察くわんさつして正確せいかくな斷定だんていを下くださない、最後さいごまで誤あやつた判斷はんぱんを下くだすことになるから注意ちゆういすべきである。

火形くわけいの人は土形どけいが相性あひせうであるから共同事きゆうどうじを行おこなふ場合ばいばいなどには、然しかるべく選擇せんたくすることが肝かん要えうである。

(3) 土形どけいの相

土形どけいは一般いへんに厚重こうじゆうといつた感じかんじのする形相けいさうである。即すなはち骨重肉實こつじゆうにくじつ、頭面厚大とうめんこうだい、鼻準豐隆びじゆんほうりゆう、

口くちが大おほきく唇くちびるが厚あつく、頤おとがひが豊ゆたかで、腰こしや背せが龜かめの如ごとく丸まる々くとして居ゐり、手てや足あしが大おほく、聲こゑは重おもく、顔色がんしよく明黄めいわうといふやうな形貌けいぼうが眞しんの土形どけいである。かゝる人は氣魄きはくが廣大くわうだいで性質せいしつは敦厚とんこうで物ものにこせつかない。人ひとを人ひととも思おもはんといふやうな無遠慮むえんりよなところもあるが、氣分きぶんは神經質しんけいしつでなく信義しんぎもある。

土形どけいの人は位階勳等ゐかいくんとうといふ方面ほうめんよりも、財的ざいてきに恵めぐまれる形貌けいぼうであるから、古來こらいの大實業家だいじつげふか大富豪だいふがうを見れば、自みづから肯うたうかれるものであると思おもふ。尙なほ、政治家せいぢか、投機的とうげてきの事業家じしげふかなどにも此この形かたちが適あしてゐる。土形どけいとの合性あひせうは木形もくけい、金形きんけいであるから、結婚けつこん、共同事業きゆうどうじしげふ、使用人しよじゆじんの雇ひひ入れなどの場合ばいばいには、よく選擇せんたくすることである。

(4) 金形きんけいの相

金形きんけいの人は、面方めんほう即すなはち顔かほの格好かくかうが用もちの字じのやうで、耳みみは正ただしく、眉目清秀びもくせいしゆう、唇齒共しんしともに揃そろつて美うつくしく、手ても大おほきからずして端正たんせいであり、腰こしや腹はらは圓まるくして正ただしく、色白いろしろく、神氣清爽しんきせいさうなるを以もつて正形せいけいとし吉相きちさうとする。鼻準びじゆんと三陽さんやうに赤あかい色いろが出て居ゐるのはよくない。これは恰あたかも土つちの中に金きんが埋うづもれてゐるやうなもので、常つねに災難さいなんが多おほく、輕かるければ祖先傳來せんぜんでんらいの家いへを破やぶり、

重ければ自らの生命を失ふことになる。然し、神氣清爽で色が冷たければ、これに少しく火形を帯ぶるのがよいといはれる。これは、金は火によつて鍛錬され大用を爲すに至るからである。

然し「金形烈火を忌む」とあつて、火氣があまりに多過ぎると、財的には恵まれず、官吏となつても昇進が甚しく遅れる。

金形に少しく土形の加はつたのは、土星金となるから吉相である。即ち色が白く氣澄み骨肉が厚くして而もだぶつかぬ形がそれである。尙ほ金形との合性は土形を第一とする。職業としては、商業、藝人などが最もよく、財的にも相當恵まれ富豪となるものもある。

(5) 水形の相

水形は、肥えて圓い、骨は軽く肉は重く、頭面、身手、耳目、口鼻、これらが皆肥えて圓い。これを後から見れば伏したる如く、前より見れば仰ぐが如くといつた格好である。そして色は黒く氣は静かなりといふのが典型的の水形である。

然し、氣が粗く、色が暗く、骨が露はれて肉が浮いてゐるやうに見え、また皮膚の色が白

くて粉でもつけたやうなのはいけない。色が紅くて鬚が無く、皮膚が滑らかで肉が冷たい感じのするものは子供に恵まれない形で水形の凶なるものである。

水形と土形とは、土剋水となつて相剋であるから、水形に土形の混加したものは凶相で運氣が停滞するものである。

反對に金形の助けを得れば、金生水で相生となるから吉相である。

水形の性格は土形に似てゐるが、それよりも更に抱擁性があつて大きい。實業家、政治家、投機業、料理屋などが適業である、合性は木形が最もよい。

以上で五行五形の相法を概説したわけであるが、これは云はゞ基本原型ともいふべきものであつて、これを實際の人に當てはめて見ても、おそらくは、純粹な水形なり金形なりの人には無いと思ふ。若し純粹に原型を具へて居る人があれば、その人は必ず富貴、長命、高位高官を得るに相違ない。先づ普通一般の人を見ると、必ず一つの形に他の形が混加して居たり或は三つ以上の形が入り雜つて、何の形に屬するか判別に苦しむやうな場合が多い。かゝる場合には、最も強くその人を代表する形を取つて主たる形とし、これと他の形との相生、相



剋の如何を見て吉凶を判断すべきである。

### 五 露

五露といふのは、顔面中に於ける五つの部分が特に突起露出して居る相のことである。即ち一には眼が突出て居り、二には鼻の穴が露はれ、三には耳が反つて目立ち、四には唇にしまりがなく齒が常に露はれ、五には咽喉骨が突起して居る。かういふ相を具へたものは、その性質が頑愚にして凶運たることを免れない。

五露は、全部完全に具はつて居ると大貴の相となるが、そのうち一つか二つかといふ風に不揃なものは、例へば眼の突出したものは壽命運が薄く、耳の反り返つたのは迂愚の相、鼻の穴の露はれてゐるもの及び咽喉骨の突出して居るものは財運に恵まれないといふ風に凶相となるのである。また、五露が全部無い場合も凶相である。

### 五 長

五長とは身體に於ける五つの部分が秀でて居る相である。即ち、頭長く、面長く、手長く、足長く、而してその骨格清秀にして肉付き豊隆なれば大貴の相とするのである。足が長くて手の短いのは貧賤の相、手長く足の短いのは富貴の相、また五短は賤者の相である。

### 五 小

五小とは、身體に於ける五つの部分が小さい相である。即ち一に頭が小さい、二に眼が小さい、三に腹が小さい、四に耳が小さい、五に口が小さい。この五つの小相が悉く揃つて而も端正なものは貴相であるが、右のうちの一つ二つが小さく、他が大きいといふやうな相は凶相である。また、顔貌の正不正といふことと勢ひの有無も五小と併せ考ふべきことである

からよく注意して観取することが大切である。

## 六 大

六大とは、身體に於ける六部分の大きいに發達せるものを云ふのである。即ち一に頭が大きい、二に眼が大きい、三に耳が大きい、四に口が大きい、五に鼻が大きい、六に腹が大きいこの六大が悉く揃つて居れば富貴の相である。然し、顔形や血色の如何によつて凶相となることもあるからその邊はよく注意して綜合的判斷を誤らないやうにすることが肝要である。たとへば眼が大きくとも濁つて居るのでは吉相とならない、また頭が大きくとも額の形が悪ければいけないといふ風に、他との均衡を見る必要がある。

## 六 極

六極とは、頭、額、目、鼻、耳、口のそれ／＼が小さい相で、これは六親離散の凶相といはれる。要するに家庭運のよくない相なのである。

## 六 賤

六賤とは、六つの賤しい相である。第一に額が缺け陥ちて居るもの、第二に胸や背が共に薄いもの、第三に音聲が水でも撒くやうに散るもの、第四に偷み眼或は流し眼の癖あるもの、第五に鼻が低く齒に缺陷あるもの、第六に眼がどんよりして光彩のないもの、これを奴隸の相といひ、その人は一生人の下に立つて頤使される運命を負ふものである。

第七章

結

論

予は茲に本著の筆を描くに當つて、顧みて盡さざるの恨みを感じ、忸怩たるものがあるけれども、性相學の學理とその應用に關して、讀者に對して理解し易きことを主としたる點に於いては、略その大要を論述し得たと信するのである。今本著を擱筆するに當つて、結論として一言述べて置きたいことは、苟しくも性相學の研究に志す者にあつては、單にその理論を究め、その智識を會得したゞけでは、其所に性相學としての何等の價値も認め得られないのであつて、これを實際に應用する相法術を體得することを得てこそ、其所に始めて性相學の價値が現れるものであると云ふことである。然らばその性相學の應用化即ち相法術を體得して、これをわれわれの日常生活に實用して、その効果を擧げ得るに至るには、如何なる方法に依るべきであるかと云ふに、勿論性相學の研究に努めて、その學理に徹底すべきことは、根本的基礎知識を確保する爲に必要缺くべからざることであるが、これを實際的に役立たしめる爲には、出來得る限り機會を捕へて、出來得るだけ多くの實驗を積んで、會得したる知識を實地に應用して、修練を重ねるやうに心掛けることが最大要件であるのである。此の學理又は習得したる知識は、これを實地に應用することによつて、始めてその効果を擧げ

得るものであると云ふことは、社會に於ける凡ての事柄に通じたる定則ではあるが、特に性相學に於いては、此の實地の應用と云ふことが何よりも肝要なことであるのである。今左に一例を擧げてこれを明かにすれば、これは予が嘗て、新聞であつたか、或は雜誌であつたかで讀んだ、三越の店員採用の任務に、何十年間と云ふ久しきに亘つて、主として携つて居つた人の一挿話であるが、その人は、自分は多年の體験によつて、店員採用に際してその第一印象で、その人物の性格、智能等を直感するのであるが、此の最初の直感が、採用後に正確に的中して殆んど間違ひがないと云ふことを斷言して居られたことを記憶して居る。予の想像では恐らく此の人は大して性相學と云ふものを研究した人ではないと思ふのであるが、然し性相學の豫備知識がなくして、單に多年の體験だけによつて此の實績を示し、絶對の自信を有するに至つたと云ふことは、實に驚くべきことであつて、此の實例によつて性相學の眞價と云ふものが、如何に實地の體験によつて始めて發揮されるものであるかと云ふことを如何に窺はれるのである。故に予は讀者に對して、性相學の研究に興味を持たるゝならば、何よりも先づ實地の體験と云ふことを第一とすべきであると云ふことを、茲に重ねて切言する

ものである。實に此の實地の經驗を積むことによつて始めて、學理の研究によつて習得したる知識が生命を得て、實際の効用を現すに至るものであつて、此の實地の經驗を伴はざる抽象的知識は、われ／＼に何等の裨益効用を齎すものではなく、それは恰も紙上に描きたる餅と同様である。

次に茲に附け加へて述べて置くことは、われ／＼人間の面相は、凡ての部位が吉相とか凶相とかに相一致して居るものではなく、ある部位は吉相であるがある部位は凶相を現して居ると云ふやうに、相一致せぬ場合が多いと云ふことである。故に面相によつてその人の性格智能、その他凡ての運命に就いて判断を下さんとする場合には、その一部位に凶はれるやうなことがなく、凡ての部位を注意して精細に觀察し、然る後に全體的にこれを觀察して、此の各部位に現れたる相と全體に現れたる相とを総合的に考察し、これによつて最後の判断を下すべきであつて、若し此の総合的觀察を忘れて、一部位に凶はれて判断を下すやうなことがあると、正確を失して飛んだ誤斷を招くに至るものであるから、此の點は性相學の研究者に取つて、特に注意すべき重要事項である。

最後に讀者に斷つて置きたいのは、面相の觀方に就いては、本著に於いて説明したる顔面の各部位の形體又はその發達等によつて判断する方法のみでなく、血色又は氣色と稱する、顔面の諸部位に現れる色彩によつて、その人に招來する吉兆幸福或は災害不幸を豫知する相法、及び流年法と稱する顔面の各部位によつて年序を追ひて運命の動向を判断する相法があるのであるが、此の血色の相法及び流年法は、實際に當つて具體的に説明するのなればこれを完全に會得せしめることが出來難いもので、従つて紙上の説明ではこれを充分に理解せしめることが至難であつて、これを在來の性相學の書物に説いてあるやうな通り一遍の説き方で説明すると、却つて讀者を迷路に導いて、折角の判断を誤たしめるやうな結果に陥らしめる惧れがあると思ふから、本著に於いてはこれを省略割愛することにし、他日改めて工夫を凝し、説明の方法を考慮して、讀者に解し易からしめるやうに著述し、本著の姉妹篇として完全なる著書を發行する考へであるから讀者はこれを諒とせられてその機會を待たれるやうに望む次第である。

面相の研究 (終)

昭和十一年九月三日印刷  
昭和十一年九月八日發行

運命與子大成 第五  
人相の研究

定價 金二圓三十錢



製 複 許 不

著者	神山五黄
發行者	東京市澁橋區戶塚町壹丁目百九番地 宮下桃太郎
印刷者	東京市牛込區西五軒町四十七番地 宮下一三
印刷所	東京市澁橋區戶塚町壹丁目百九番地 英京社整版印刷所

發行所

東京市澁橋區戶塚町壹丁目  
早稻田大學北側市電大通り  
電話替牛込四五六七五番

東學社

大賣捌所

東京—東京堂・東海堂・北隆館・大東館  
上田屋書店・栗田書店・大阪屋  
大柳原書店  
福晉社

# 茅原東學著 河井荃廬序

河井荃廬氏より東學氏に送られたる書簡の一節——  
(中略) 孫注を底本として之を刪補せられ、正繆述義、並に深切を極め、また「執熟願涼」の執を以て製の借字と爲し、重衣也と解せられ候は、前人の未だ道破せざりし所。佩甚佩甚。

菊判和紙使用  
百二十餘頁  
和裝上製箱入

清の孫呂吉の原注に基  
づき碩學東學先生刪定  
並びに譯文を附す！  
前人未踏の卓見全卷を  
壓す千字文の意義を解  
せずして千字文を臨す  
る者多し之耻づ可き哉

現今書道の流行は、實に未曾有とも可申歟、而も寫せども罔然として其意を知らざる者往々有之これ南鍼たる良書の乏しきにも因るならんと存候。乃ち大著のごときは能くその缺を補ひ、後進に裨益すること多大なるを相信じ申候。  
尙今後とも此種の好著の續々世に出でんことを、斯道の爲不堪企望候。  
玉稿奉繳に際し、不取敢以寸楮如此御座候。(後略)

# 千字文考正

定價一圓十五錢  
送料四十錢

東方書道會  
審查員

石井雙石著

# 篆刻指南

- ▼上製雲形綾絹裝極美本▲
- ▼四六判二百六十餘頁▲
- ▼挿畫無慮數百圖▲
- ▼口繪アート十六頁▲
- ▼定價一圓八十錢▲
- ▼送料十四錢▲

篆刻趣味家  
書道家畫家  
待望の書冊  
印の知識無  
くて書畫を  
論ずる勿れ

本書はどんなアマチュアも、一讀直ちに印を刻することが出来るやうに用具、刻法等を初歩から懇切に説き起してあるから、恰も師に手を取つて教へられるの觀がある。更らに治印雜説に詳細は註釋を施し高級な刀法にまで論を進めてゐるから、専門家にも絶好の参考書たるを失はぬ。殊に印の種類を一々列舉し、それに對する實例圖版を掲載し、詳細な解説が與へられてゐる。本書を座右におけば、如何なる印は如何なる場合に使用するかに就て絶對に迷ふやうなことはない。兎角書道に又は畫道に志を持つてゐても印の知識を持たぬ人が多い。如何なる名筆も名畫も印の使用を誤まれば型無しである。書家畫家たるものは篆刻に對しても相當の見識を備へて置きたいものである。本書こそかかる要求に合致した名著として江湖に推すを憚らない。

東京市橋區戸塚町 東學社 電話 牛込四九四番  
東京市東區二八六番 電話 振替 八六四九番

# 家相本位の住宅設計圖案集

工學士  
本間五郎 松平英明 共著

菊地寛氏はその隨筆で最近文壇人で二人の知人が家を建てた。その一人は直木三十五、もう一人は牧逸馬君。さうして、この二人共が家を建てて間もなく死んでゐる。この事實を思ふ時、自分は何かして家を建てるといふことに氣が進まない。家相といふものが舊くから云はれてゐるが、二人共文士の我儘な考いで家を建ててゐたのである。

## 運命を支配する 科學的家相の神秘

「家相なんざあ」と現代の多くの人は否定するさうした人が新築をして災難に逢つた時、先づ家相に就いて考へる。家相は近代科學の上から觀ても、そこに住む人を支配する。迷信や、作りごとでは無い。本書は、家相の實在をはつきりとさせ、殺人強盜の侵入、病災、火災倒産等々戰慄すべき幾多の實例を載けて、如何に家相が家族や一家を暗くするかを五百餘の寫眞圖版、間取圖、配置圖等實例によつて示し是等の不吉な家相を如何にすれば災難をのがれ、金運に恵まれ運命が開くか等に就いて詳しく説明してある。轉居する造作をなほす、新築をする等の場合、先づ轉ばぬ先の杖として是非本書の一讀をお薦めする。

### 内容見本進呈

- ▼四六倍判三四四頁
- ▼寫眞圖版五百六十餘
- ▼定價三圓八十錢
- ▼送料二圓二十錢

東京市橋區戸塚町 東學社 電話 牛込四九四番 電話 牛込四九四番

## 今井鴻象著

### 運命學大成

(内容見本進呈)

- ▼菊版豪華本箱入
- ▼總頁三百四十頁
- ▼挿入圖版無數
- ▼定價二圓三十錢
- ▼送料二圓二十錢

# 墓相と家運

家運衰退は墓相の不備から起る！  
祖先の墓を整備し家運挽回を計れ

◇家と墓との因果の理法は生と死の如く不可分である！  
墓は家の延長である。凡ての道がエルサレムへ通じてゐるやうに凡ての人は墓へ向つて歩いてゐる。墓は道の終點であり、永遠の安住所である。現世に於て住むに家なき者にも墓のみは入ることを拒ばない。墓に比すれば家は一時の假りの宿とも云へる。世には往々にして此の理を辨へず、堂々たる邸宅を構へながら祖先の墓を閉却してゐるものがある。また生前から己れの墓を祖先の墓よりも莊麗に飾りたて、得々としてゐる者がある。現在如何に榮へてゐるやうとも、斯かる家には、眼前不幸の深淵が大きい口を開いてゐるのだ。本書によりて墓相の正形を知り、速かに悪い所を改善し子々孫々まで家運の繁榮を期せよ。  
◇墓の形式・形體・方位・地勢・供養等の諸點を詳細す！

東京市橋區戸塚町 東學社 電話 牛込四九四番 電話 牛込四九四番



◇山口裕康著◇ 運命學大成

# 名相と人生

(内容見本進呈)  
▼菊版華麗本箱入  
▼總頁三四〇頁  
▼附・命名改名辭典  
▼定價二圓三十錢  
▼送料二十二錢

是れぞ姓名  
學の定本！  
讀めば直ぐ  
誰にも活用  
出来る命名  
の虎の巻！

維新の元勳は殆んど皆改名してゐる。成功者ほど名の大切なる以所を  
知り、名を重んじてゐる。姓名の悪いものは必ず失敗してゐるから妙  
である。屋號の善悪で店が榮えたり潰れたり、會社も名のつけやうで  
發展もすれば衰微もするから妙である。名を改めて運命が旭日昇天の  
勢で轉換した人も枚擧に違がない。名を變へることは氣を變へること  
である。名を改めると同時に精神力に偉大な影響を及ぼして來るもの  
である。本書は著者が粒々辛苦八ヶ年を要して成つた「命名、選名改  
名大辭典」を附してある。昨日生れた愛兒の名前が誰の手もかりず  
命名出来る。巷間に流布されてゐる類書とは選を異にしてゐる。

東京市橋區戸塚町 東學社 電話 牛込四九番 五七六八番

◇福永清白著◇ 運命學大成

# 氣學の神秘

(内容見本進呈)  
▼菊判極美本箱入  
▼總頁三四〇頁  
▼挿入圖版數十個  
▼定價二圓三十錢  
▼送料二十二錢

九星の古き  
を捨て哲學  
心理學の根  
源に立脚し  
四柱推命學  
の正しき書

其の人の生年月日で成功も出世も、失敗も落伍もびたりとあたるから  
不思議だ！性格も一生の運命も明快に此の本が教へてくれる。此の本  
を手にして自己の生きて行く方角を見出して、明るい正しい人生を亨  
樂すべきである。どうすれば開運できるか、どうすれば金がたまる  
か、子供運がないのは何故か、妻縁に恵まれないのは何故か、自分の  
適業は何を選ぶべきか、又は人を雇ふのにどこを見ればその人の長所  
と短所を知り得るか、本書こそ運命を開拓變化せしめ、轉禍爲福の活  
殺自在なる術策を與へ、人間の氣質變化の法則を解剖し天賦の善道を  
明示せる、近來の快書である。

東京市橋區戸塚町 東學社 電話 牛込四九番 五七六八番

◇平松愛久著◇

・運命學大成・

(内容見本進号)

# 相性と結婚

▼菊版華麗本箱入

▼總頁三四〇頁

▼挿入圖版數十個

▼定價二圓三十錢

▼送料二十二錢

一刻も速く

本書を讀み

結婚の幸福

を確保せよ

本書こそ仲

人の好侶伴

◇運命の一大轉機たる婚姻をして成功の契機たらしめよ！

幸福の絶頂は不幸の深淵に望んでゐる。恐る可きは結婚である。同時に人生最大の幸福も結婚である。結婚を一轉機として運命がガラリと變り、幸福となる者は旭日昇天の勢で幸福となり、不幸となるものは秋の日のやうに釣籠落しに運命が下降する。婚姻をして福となすも禍となすも一つに配偶者の選擇に依ることは申すまでもない、本書の著者は生物學的な理論から出發して夫婦和合の法則を説き、如何なる結合が優生學的に最優良兒を生むかを究明し、合せて見合、結婚、式典、披露、新婚旅行、結婚衛生、里歸り等の諸項にまで筆を進めてゐる。

◇お仲人をなさる方は是非一度本書を参考に御覽下さい！

東京市橋區戸塚町壹丁目九百九番地 東學社 電話替振東京二八六八番 電話替振東京二八六八番

698

53

